秋 田 県 立 博 物 館

年　　報

平 成 29 年 度

秋田県立博物館

は　じ　め　に

この４月に秋田県人口は100万を切り、急激な人口減を現実的に突きつけられた思いを抱きました。加速度的に進む少子・高齢化の中で、故郷秋田の輝きを後世に伝えていく博物館の責務を職員一人ひとりが自己の使命として受け止めることが今まで以上に求められております。

秋田県立博物館は、県人口が123万を有していた昭和50年に、人文・自然部門を統合した展示が特徴の本館と分館「重要文化財・旧奈良家住宅」からなる博物館として開館しました。平成８年には、各分野に大きな功績を残した秋田ゆかりの人物を紹介する「秋田の先覚記念室」と江戸時代後期の旅行家菅江真澄の足跡をたどる「菅江真澄資料センター」を増設し、平成16年には、参加体験型の展示室「わくわくたんけん室」などの新機能を付加し、リニューアルオープンしました。

開館から42年、「知」の伝承としての普遍的使命を追求すると同時に、社会の変化や県民のニーズに応えられる博物館の創造を目指してきました。この４年間は連続して来館者数が10万人以上を記録しています。博物館を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、地域に貢献する博物館として広く県民に受け入れられてきているのではないかと自負しております。

今年度は、「中期ビジョン2015～2019」の中間年度にあたりますが、待つ博物館ではなく、行動する博物館として、新たに小中高生を対象とする「未来の学芸員養成講座」を立ち上げます。秋田の豊かな文化資産を活かした学びをとおして郷土への愛着と誇りを醸成していきたいと考えております。

本県の生涯学習は学びを生かした活動にチャレンジする「行動人」を目指しています。博物館は生涯教育の拠点として、世代に応じたセカンドスクールやボランティア活動等の場を提供し、「知」に触れることの感動や学びあうことの楽しさを伝え、県民の創造性豊かな人生に貢献していきます。

今後も過去を学び、現在を見つめ、未来につながる博物館の使命にスタッフ一同力を合わせて取り組んで参りますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

秋田県立博物館
館長　山　口　多加志

目次

■　施設の概要

Ⅰ　博物館のあゆみ …… 4

Ⅱ　施設・設備 …… 5

Ⅲ　展示室 …… 9

Ⅳ　組織 …… 13

Ⅴ　職員 …… 14

■　事業の概要

Ⅰ　平成29年度博物館運営方針 …… 16

Ⅱ　平成29年度博物館事業計画 …… 16

1　重点目標 …… 16

2　活動計画 …… 17

Ⅲ　平成28年度事業報告 …… 20

1　調査研究活動 …… 20

2　資料収集管理活動 …… 23

3　展示活動 …… 24

4　教育普及活動 …… 30

5　広報出版活動 …… 33

6　学習振興活動 …… 35

7　館外活動 …… 38

■　資料

Ⅰ　収蔵資料の概要 …… 41

Ⅱ　歴代館長、特別展等一覧 …… 42

Ⅲ　秋田県立博物館条例 …… 43

Ⅳ　秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） …… 44

教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋） …… 44

Ⅴ　入館者に関する資料 …… 45

施設の概要

Ⅰ　博物館のあゆみ

昭和42年１月　第２次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月　県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
47年３月　県立博物館設立構想完成
49年11月　定礎式
50年３月　秋田県立博物館条例制定
５月　開館式（５日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
７月　登録博物館となる（登録日50.7.1）
54年１月　生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
55年５月　秋田県博物館等連絡協議会発足
59年９月　開館10周年記念式典
63年９月　本館屋根防水工事完了
平成３年８月　秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
９月　分館旧奈良家住宅屋根修理着工
４年11月　分館旧奈良家住宅屋根修理完成
５年７月　増築工事着工
７年８月　増築工事完成
８年４月　「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
９年８月　ニューミュージアムプラン（ＮＭＰ）21検討委員会設置
11年４月　入館料が無料となる
14年４月　ニューミュージアムプラン（ＮＭＰ）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
15年10月　改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
16年３月　展示工事完成
４月　リニューアルオープン
17年12月　開館30周年記念式典
18年３月　旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
20年７月　クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
27年９月　開館40周年記念式典

Ⅱ　施設・設備

設置場所　秋田市金足鳥崎字後山52
敷地面積　14,885.9㎡
建築面積　6,237.93㎡
建築延面積　11,946.2㎡
建築構造　鉄骨鉄筋コンクリート造り
地上３階、塔屋２階建

【建築工事】
建築費　2,058,131千円
（含調査事務費・展示資料費）
着工　昭和48年７月
竣工　昭和49年11月
開館　昭和50年５月
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　三井建設㈱
設備施工　㈱三晃空調
東北電気工事㈱
展示設計施工　㈱丹青社

【増築工事】
建築費　1,578,174千円
（含調査事務費・展示資料費）
着工　平成６年７月
完成　平成８年２月
増設開館　平成８年４月
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　三井建設㈱
設備施工　㈱ユアテック
日の出施設工業㈱
㈱三和施設
日本オーチスエレベータ㈱
展示設計施工　㈱アートシステム

【ＮＭＰ事業】
事業費　2,087,400千円
{総事業費（含調査事務費、
展示製作委託費）}
着工　平成14年３月
完成　平成16年３月
リニューアル開館
平成16年４月29日
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　㈱林工務店
㈱清水組ＪＶ
設備施工　大民施設工業㈱
㈱あたごＪＶ
㈱中田建築設備
㈱ユアテック秋田支社
サン電気工業㈱
展示製作実施設計　㈱丹青社
展示製作委託施工　㈱乃村工藝社

設備

〈電気設備〉
(1)　受電電圧　３φ6,600Ｖ　50HZ
一般照明用　450KVA　(150×３)
一般動力用　550KVA　(300×１)
(250×１)
非常照明用　50KVA
非常動力用　150KVA
(2)　発電機設備　発電電圧　３φ6,600Ｖ
50HZ　200KVA
エンジン　ディーゼル　230KVA
(3)　蓄電池設備　108Ｖ　200AH　10HR
54セル
(4)　その他幹線・動力・電灯用設備一式

〈警戒（報）設備〉
(1)　レーダー警報設備（展示室・収納庫）
方式、パッシブインフラレッド方式
レーダー検出　10ヶ所
ドアスイッチ　10ヶ所
(2)　Ｉ・Ｔ・Ｖ監視設備
監視用カメラ　21台
（展示室14台　収蔵庫４台
１Ｆホール１台　外２台）
(3)　一般・非常放送設備
ロッカ型防災アンプ　容量　200W
非常時警報音　自動吹鳴式（サイレン）

〈空調換気設備〉
(1)　冷凍機設備（備熱水槽方式　容量780m³）
直焚吸収式冷温水機　冷却能力
1,220KW　加熱能力　1,200KW　１基
ターボ冷凍機（夜間蓄熱運転系統）
冷却能力　312KW　１基
空冷チリングユニット（夜間運転系統）
冷却能力　132KW　１基
(2)　ボイラー設備
貫流ボイラー（暖房・加湿用）熱出力　940KW
（換算蒸発量1,500kg/h）

伝熱面積　9.9m³　２基

(3)　空気調和設備（10系統）

冷却能力合計　897.8KW

加熱能力合計　524.6KW

(4)　換気設備一式

給気量（７系統）合計　25,850m³/h

排気量（９系統）合計　28,360m³/h

(5)　空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1)　防災設備　排煙口32ヶ所・タレ壁20ヶ所

防火戸47ヶ所

(2)　消火設備　屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓24ヶ所　屋外消火栓24ヶ所

ハロン消火設備（収蔵庫のみ　３区画）

二酸化炭素消火設備（収蔵庫のみ　２区画）

〈その他の設備〉

(1)　荷物用エレベータ　容量2,500kg

45m／min　１基

(2)　乗用エレベーター　積載量750kg

11人乗45m／min　２基

(3)　電話設備　局線５回線　内線49回線

(4)　衛生設備　給排水設備一式

(5)　ガス設備及び避雷針設備

(6)　ガス燻蒸消毒設備

建　築　予　算

単位：千円

区　分	44～46年度	47　年　度	48　年　度	49　年　度	計	財源内訳
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建物費	－	－	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	－	－	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

増　築　予　算

単位：千円

区　分	３～４年度	５　年　度	６　年　度	７　年　度	計	財源内訳
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建物費	－	－	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展示・資料費	－	1,500	141,784	310,534	453,818	
初度調弁・その他	－	－	－	11,000	11,000	一般
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

ＮＭＰ21事業予算

単位：千円

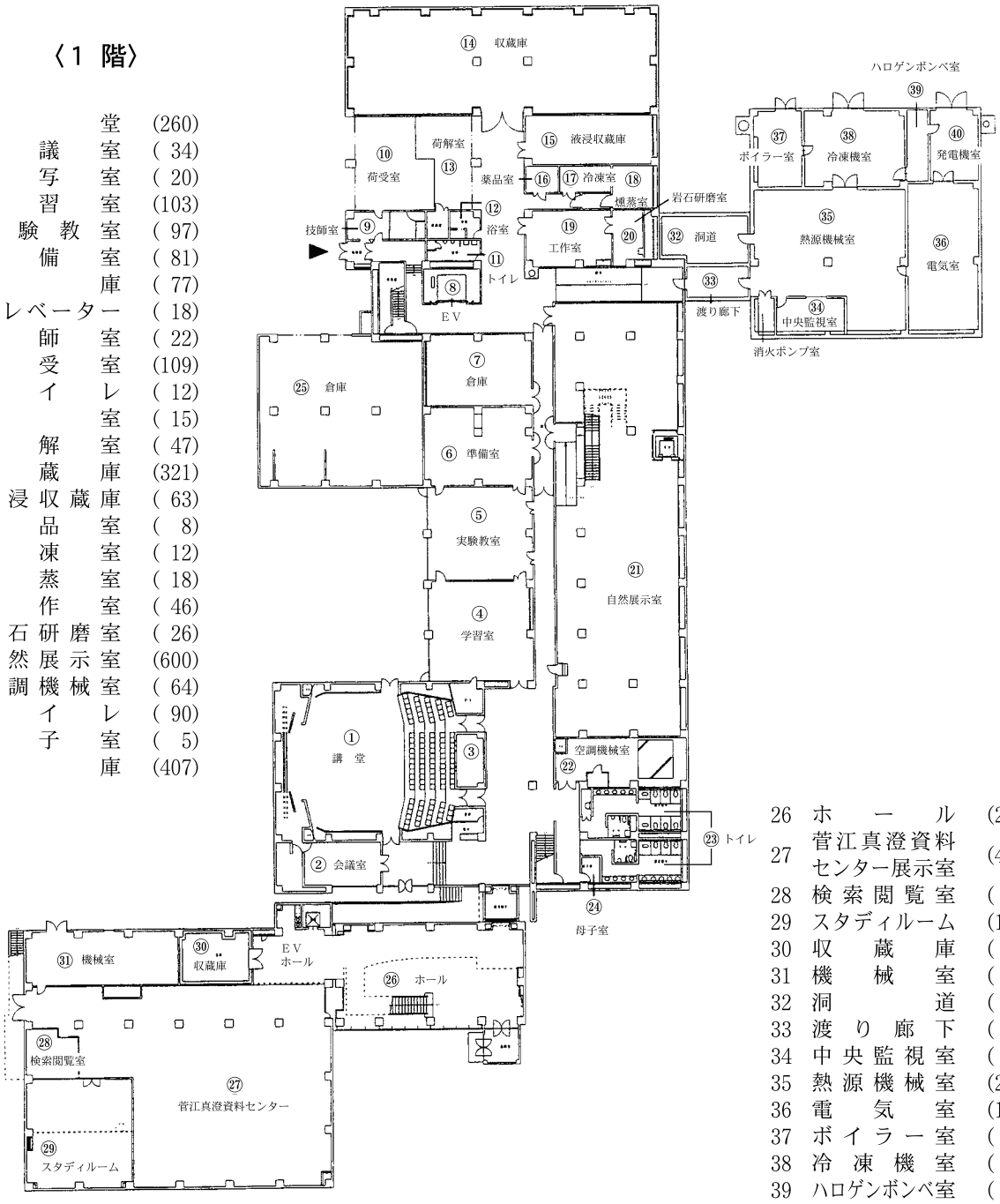
区　分	11年度	13年度	継続費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	－	－	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委託費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	－	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

－各階平面図－

（　）内の数字は面積（単位㎡）

〈1 階〉

1	講堂	(260)
2	会議室	(34)
3	映写室	(20)
4	学習室	(103)
5	実験教室	(97)
6	準備室	(81)
7	倉庫	(77)
8	エレベーター	(18)
9	技師室	(22)
10	荷受室	(109)
11	トイレ	(12)
12	浴室	(15)
13	荷解室	(47)
14	収蔵庫	(321)
15	液浸収蔵庫	(63)
16	薬品室	(8)
17	冷凍室	(12)
18	燻蒸室	(18)
19	工作室	(46)
20	岩石研磨室	(26)
21	自然展示室	(600)
22	空調機械室	(64)
23	トイレ	(90)
24	母子室	(5)
25	倉庫	(407)



26	ホール	(242)
27	菅江真澄資料センター展示室	(464)
28	検索閲覧室	(23)
29	スタディルーム	(113)
30	収蔵庫	(40)
31	機械室	(83)
32	洞道	(42)
33	渡り廊下	(25)
34	中央監視室	(23)
35	熱源機械室	(206)
36	電気室	(110)
37	ボイラー室	(41)
38	冷凍機室	(73)
39	ハロゲンボンベ室	(16)
40	発電機室	(36)

部門別床面積(㎡)

展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

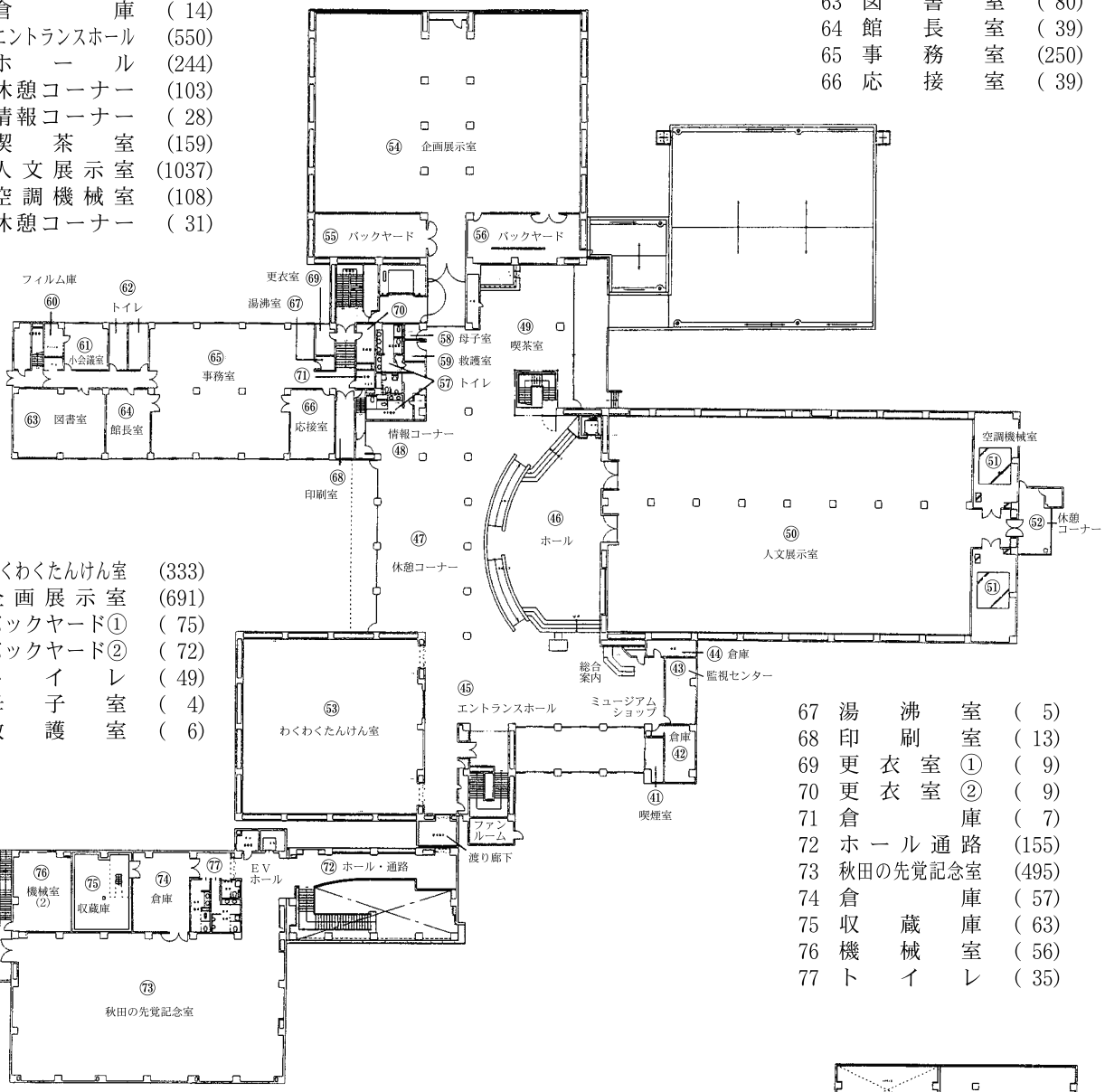
階別面積(㎡)

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2 階〉

41 喫　煙　室　(8)
42 倉　　庫　(23)
43 監視センター　(25)
44 倉　　庫　(14)
45 エントランスホール　(550)
46 ホ　ー　ル　(244)
47 休憩コーナー　(103)
48 情報コーナー　(28)
49 喫　茶　室　(159)
50 人文展示室　(1037)
51 空調機械室　(108)
52 休憩コーナー　(31)

60 フィルム庫　(9)
61 小会議室　(26)
62 ト　イ　レ　(29)
63 図　書　室　(80)
64 館　長　室　(39)
65 事　務　室　(250)
66 応　接　室　(39)



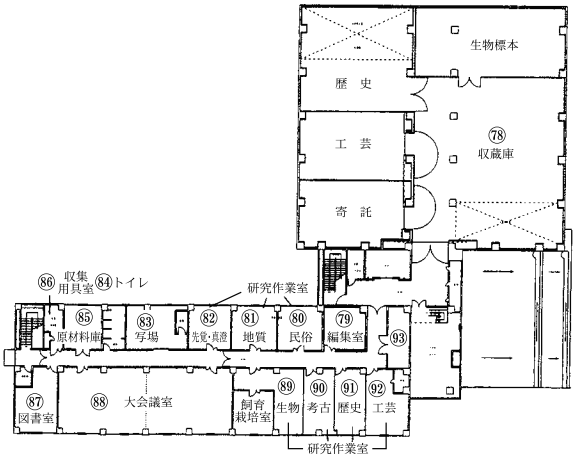
53 わくわくたんけん室　(333)
54 企画展示室　(691)
55 バックヤード①　(75)
56 バックヤード②　(72)
57 ト　イ　レ　(49)
58 母　子　室　(4)
59 救　護　室　(6)

67 湯　沸　室　(5)
68 印　刷　室　(13)
69 更衣室①　(9)
70 更衣室②　(9)
71 倉　　庫　(7)
72 ホール通路　(155)
73 秋田の先覚記念室　(495)
74 倉　　庫　(57)
75 収　蔵　庫　(63)
76 機　械　室　(56)
77 ト　イ　レ　(35)

〈3 階〉

78 収　蔵　庫　(840)
79 編　集　室　(27)
80 研究作業室(民俗)　(28)
81 〃　(地質)　(28)
82 〃(先覚・真澄)　(27)
83 写場・暗室　(38)
84 ト　イ　レ　(15)
85 原材料庫　(24)

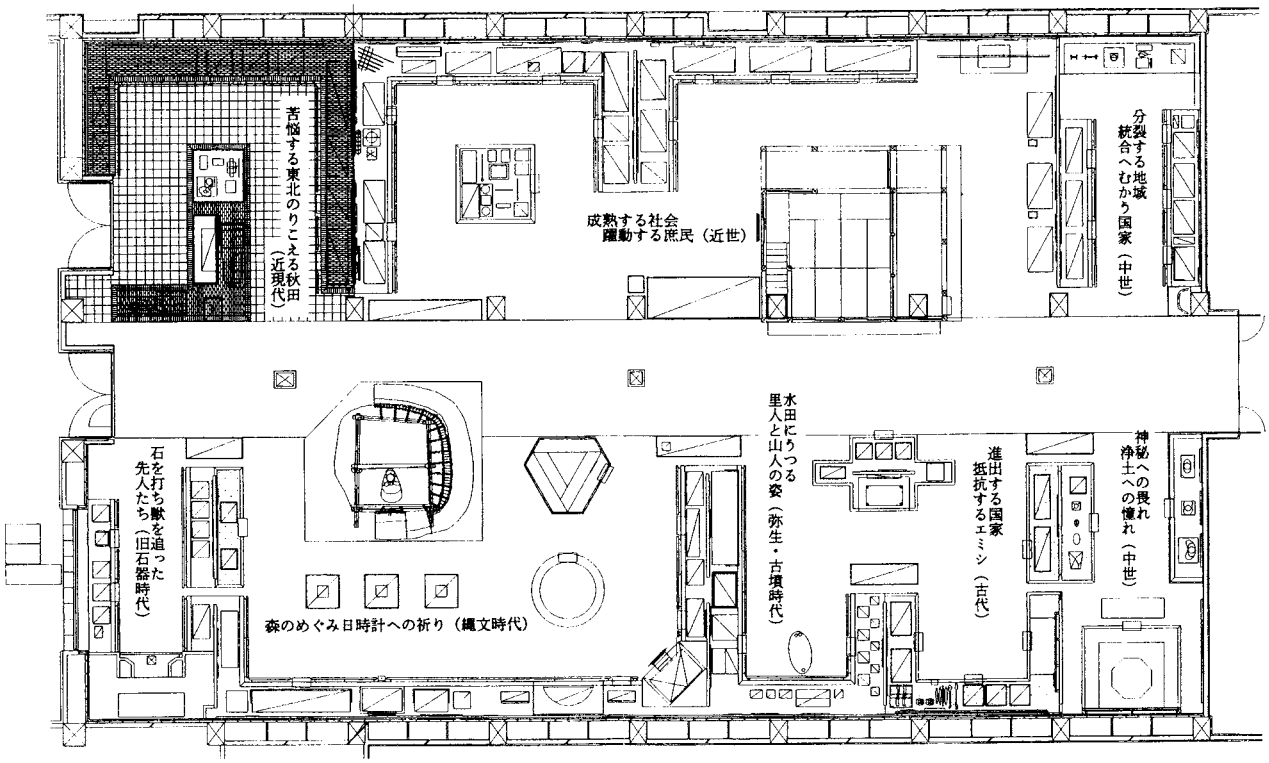
86 収集用具室　(10)
87 図　書　室　(34)
88 大会議室　(158)
89 飼育栽培室・研究作業室(生物)　(62)
90 研究作業室(考古)　(27)
91 〃　(歴史)　(27)
92 〃　(工芸)　(39)
93 倉　　庫　(19)



Ⅲ 展　示　室

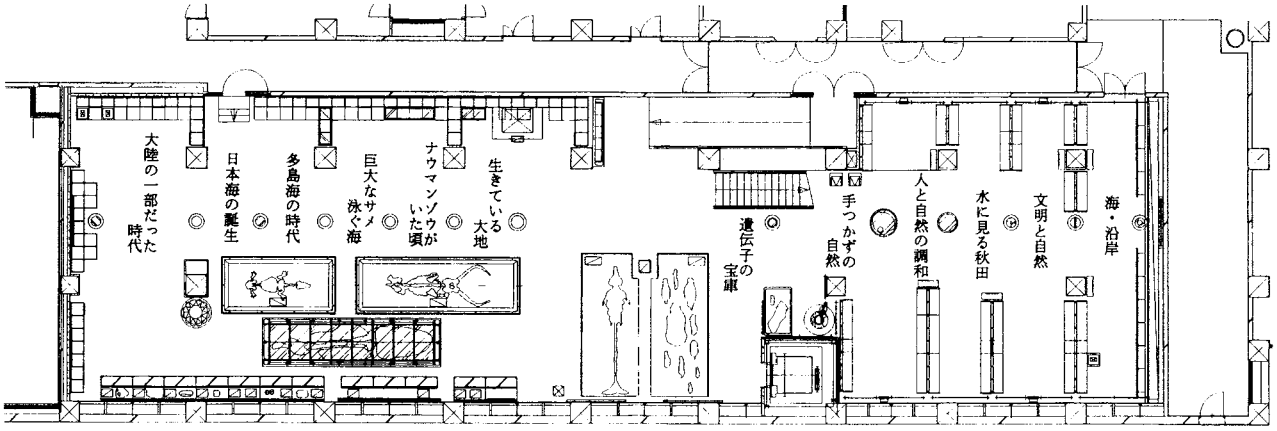
◇人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気のなかで自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

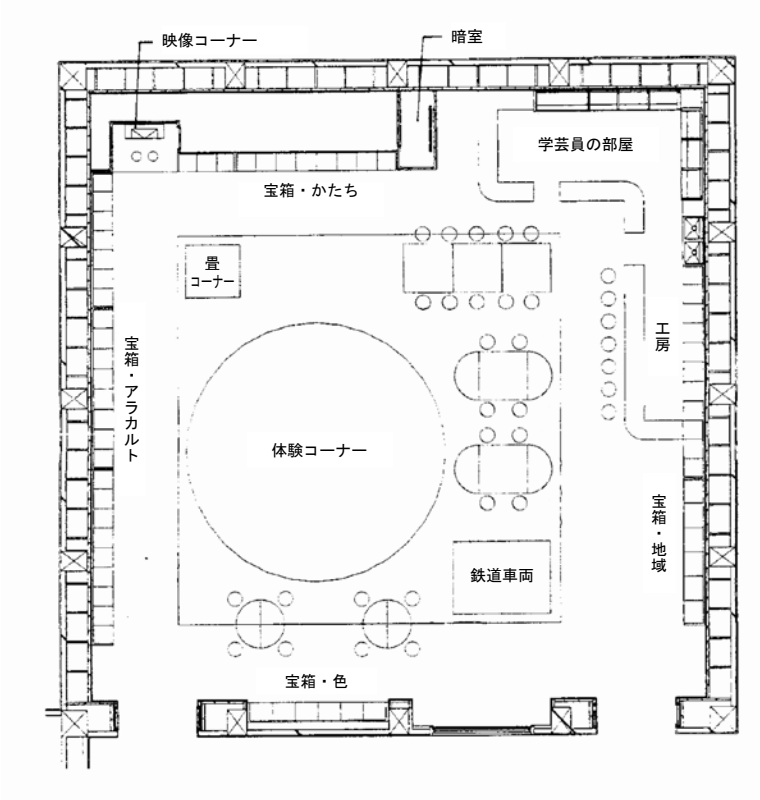


◇自然展示室

「いのちの詩」（生物）・「大地の記憶」（地質）の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。

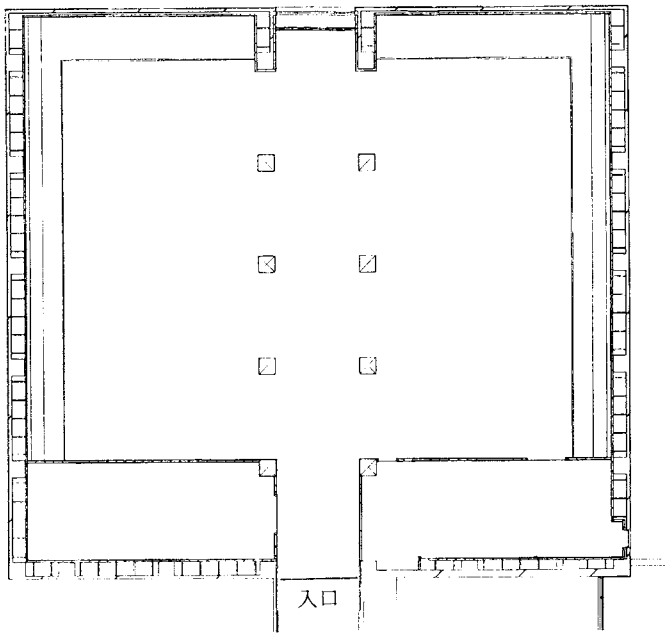


◆ わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動をしながら秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。パソコンや図書で調べものができる学芸員の部屋や、ビデオやDVDが見られる映像コーナーなどもある。

◆ 企 画 展 示 室

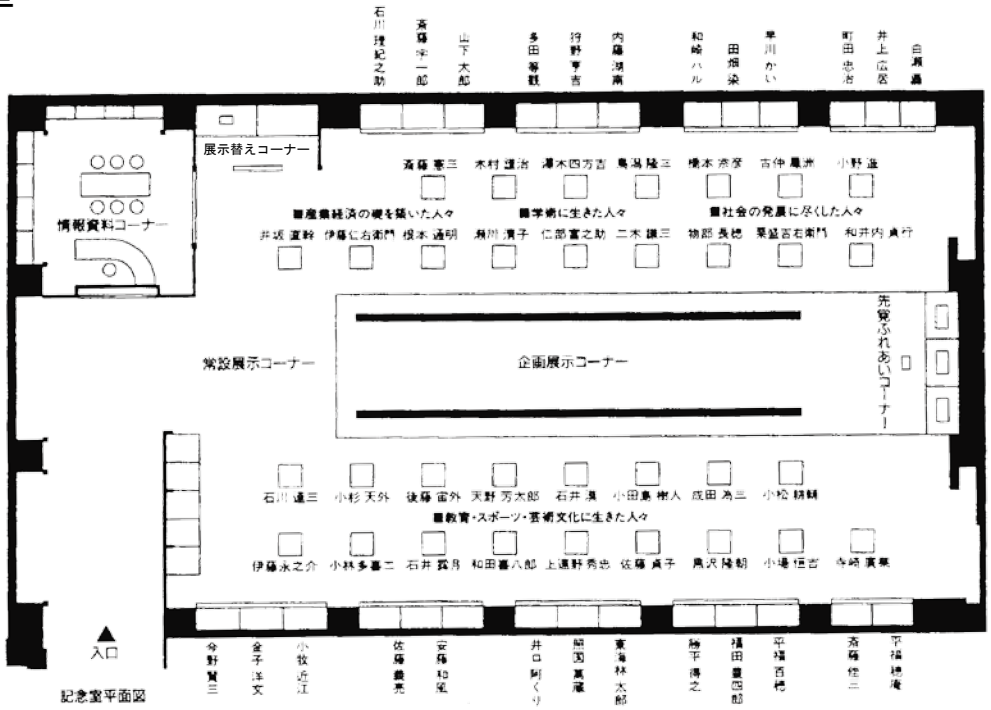


従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。

◇ 秋田の先覚記念室

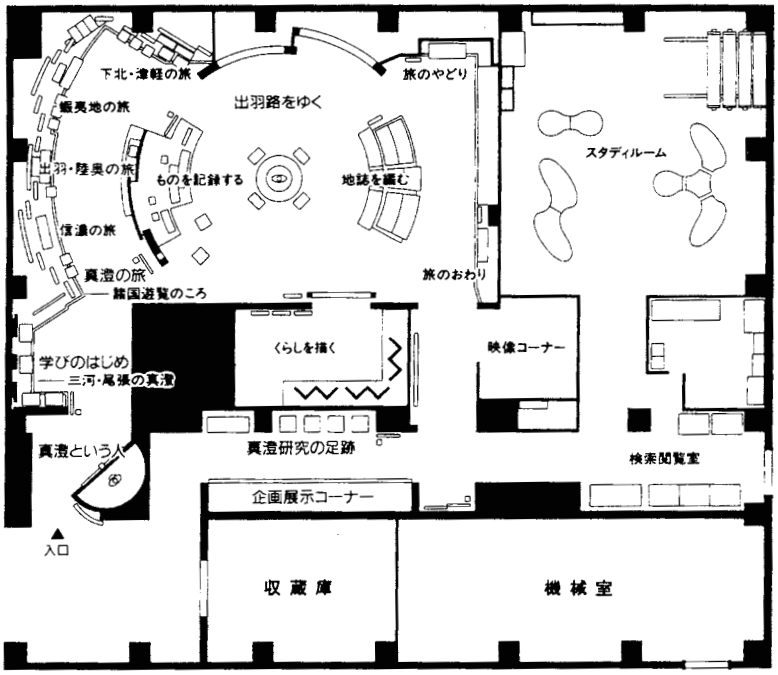
近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



記念室平面図

◇ 菅江真澄資料センター



資料センター平面図

江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディルーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

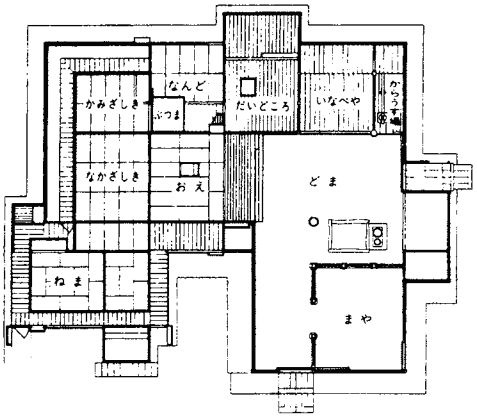
◆ 分館・旧奈良家住宅

所　　在　　地　　秋田市金足小泉字上前８　　電話 018（873）5009
旧　所　有　者　　奈良恭三郎（昭和44年５月寄贈）
昭和40年５月29日　重要文化財（建築面積　459.08㎡）

旧奈良家住宅はＪＲ東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から１kmの男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

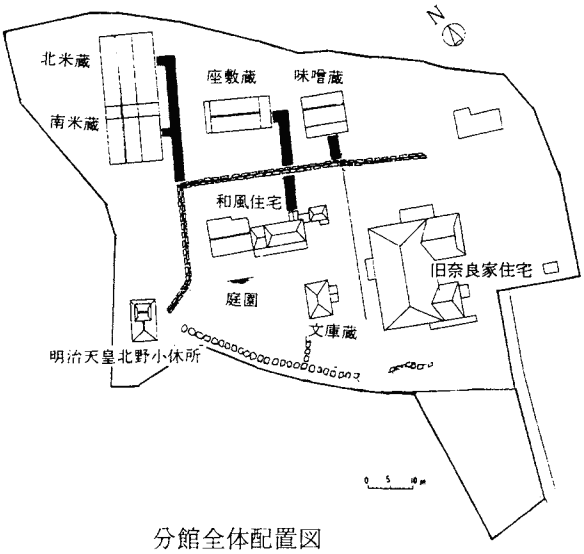
昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）９代喜兵衛が銀70貫と３年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



◆ 旧奈良家住宅附属屋

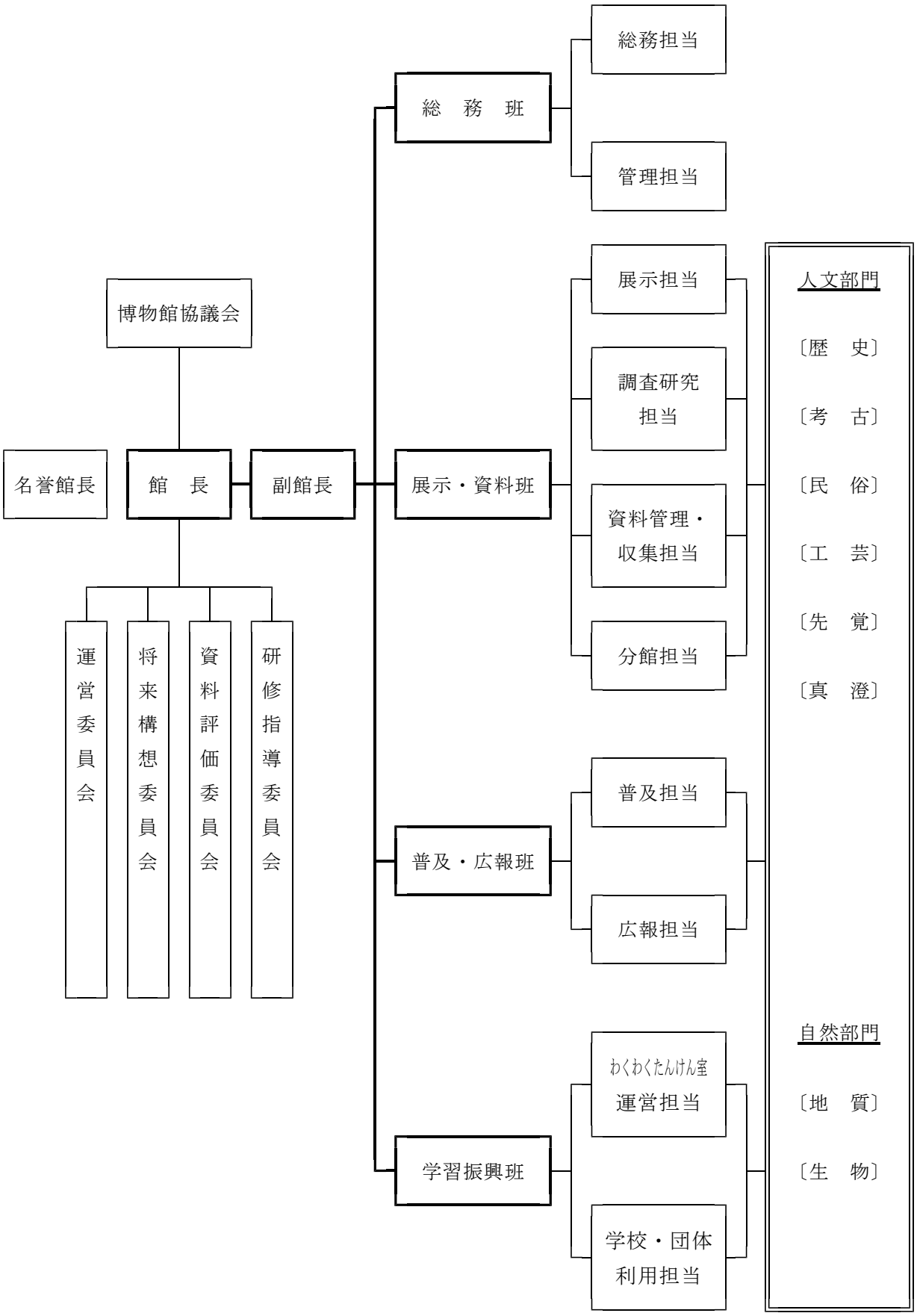
敷地内にある附属屋は平成18年３月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治７年に建造された、土蔵造の建物
座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物
米　蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造
明治天皇北野小休所（移築）……明治14年に建造された、木造平屋建の建物
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物
文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

Ⅳ　組　　織


総務担当
総　務　班
管理担当
展示担当
博物館協議会
調査研究担当
人文部門
〔歴　史〕
名誉館長
館　長
副館長
展示・資料班
資料管理・収集担当
〔考　古〕
〔民　俗〕
〔工　芸〕
〔先　覚〕
〔真　澄〕
分館担当
運営委員会
将来構想委員会
資料評価委員会
研修指導委員会
普及担当
普及・広報班
広報担当
自然部門
わくわくたんけん室運営担当
〔地　質〕
学習振興班
〔生　物〕
学校・団体利用担当

Ⅴ　職　　員

班名	職　名	氏　名	各班の分掌と部門担当
	館　長	山口　多加志	総括
	副館長	髙橋　正	館長の補佐
総務班	副主幹（兼）班長	土橋　謙一	班の総括、危機管理に関すること
	主　査	清水　寿子	服務、給与、歳入予算に関すること
	主　事	田中　豊人	管理、営繕、歳出予算に関すること
	技能主任	武田　光彦	空調設備運転、施設設備管理に関すること
	技能主任	大川　一成	公用車運転、施設設備管理に関すること
展示・資料班	主任学芸主事（兼）班長	梅津　一史	班の総括、生物部門に関すること
	主任学芸主事	松山　修	資料管理、展示企画、真澄部門に関すること
	学芸主事	畑中　康博	展示企画、資料管理、歴史部門に関すること
	主査(兼)学芸主事	新堀　道生	調査研究、展示企画、歴史部門に関すること
	主査(兼)学芸主事	丸谷　仁美	資料管理、分館、民俗部門に関すること
	学芸主事	浅利　絵里子	調査研究、展示活動、生物部門に関すること
普及・広報班	主任学芸主事（兼）班長	船木　信一	班の総括、生物部門に関すること
	主任学芸主事	佐藤　隆	普及、広報、歴史部門に関すること
	学芸主事	簗瀬　圭二	普及、広報、地質部門に関すること
	主査(兼)学芸主事	加藤　竜	普及、広報、考古部門に関すること
	主査(兼)学芸主事	鈴木　秀一	普及、広報、地質部門に関すること
	学芸主事	斉藤　洋子	普及、広報、工芸部門に関すること
学習振興班	学芸主事（兼）班長	池端　広樹	班の総括、先覚部門に関すること
	学芸主事	齋藤　知佳子	わくわくたんけん室の運営、工芸部門に関すること
	学芸主事	平田　有宏	学校団体利用、先覚部門に関すること
	学芸主事	角崎　大	学校団体利用、真澄部門に関すること

［非常勤職員］

國安　民男（ボイラー）
畑澤　俊視（　同　）
黒沢　清直（守　衛）
石黒　司（　同　）
林　信久（　同　）
鈴木　博（　同　）
松橋　敏雄（工　作）

木村　七緒子（展示解説・案内）
加賀谷　洋子（　同　）
朝野　恵美（　同　）
木村　真実（　同　）
小林　純子（　同　）
佐藤　里美（　同　）
舛屋　みずほ（　同　）
関谷　百世（　同　）
松橋　郁子（　同　）
佐藤　真喜子（　同　）

宮本　康男（学芸補助）
嵯峨　彩子（　同　）
佐々木　由衣（　同　）
藤井　千里（　同　）
山平　弥江子（　同　）

事業の概要

Ⅰ　平成29年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに歩む博物館運営に一層努め、県民文化の向上に寄与する。

1　本県の生涯学習を支え、推進する館運営を積極的に行う。

2　県民のニーズに応える展示・教育活動等の在り方を追求する。

3　郷土秋田の自然や文化、歴史等に親しむことができる環境整備を図る。

4　県内外の博物館、類似施設、諸研究機関、教育機関、ボランティア団体等との連携を図る。

Ⅱ　平成29年度博物館事業計画

1　重点目標

（1）　博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。

ア　県民の郷土理解・ふるさと教育に資する調査研究を計画的に推進する。

イ　調査研究の成果を広く一般に公開する。

（2）　県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。

ア　長期的展望に立ち、計画的に資料を収集・整理する。

イ　収蔵及び展示資料のデジタルデータ化を推進し、効果的な活用を進める。

（3）　驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。

ア　県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。

イ　打って出る博物館として、出張展示を積極的に実施する。

（4）　各展示室の機能を検証し、展示室同士を有機的に結びつけ、効果的な利用を図る。

ア　常設展は変わらないという常識に挑戦する。

イ　各展示室の有機的なつながりを構築する。

（5）　博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。

ア　ボランティア組織等と連携して、博物館教室等普及活動の充実を図る。

イ　諸機関との連携講座や出前講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。

（6）　郷土に親しみと愛着がもてるような博物館活動の広報を行う。

ア　印刷物やさまざまな媒体を用いて博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。

イ　より緊密なネットワークを構築し、地域と県民のために貢献する。

（7）　博物館利用の支援や促進に努め、県民の生涯学習の充実に資する。

ア　アイテムの改善・開発を進め、わくわくたんけん室の一層の充実を図る。

イ　内容や広報の充実を図ることで、学校団体によるセカンドスクール的利用を促す。

2　活動計画

調査研究

◇部門研究の推進
- ・歴史　歴史資料による高校日本史の授業の研究
  守屋家資料の研究
  松本家資料の整理と研究
- ・考古　縄文時代祭祀遺物の研究
- ・民俗　米代川流域の番楽に関する資料調査
  秋田県内の妖怪に関する資料調査
- ・工芸　秋田の暮らしと織物の基礎調査
  秋田県内における編組品の調査研究
- ・先覚　多田等観資料についての解明
  後藤宙外と書簡
- ・真澄　真崎文庫における真澄遊覧記
  菅江真澄資料センター収蔵資料の整理と展示活用について
- ・地質　寒風山の風穴調査
  秋田県の温泉と地質
- ・生物　秋田県に生息する希少動物の生態調査
  秋田県産ホソハマキモドキガ科の標本収集とリスト作成
  秋田県内の有用植物（食用利用を中心に）

◇共同研究、博物館学的研究の推進
- ・川口渓谷周辺の土壌重金属と植生の関係
  （県立大・生物）

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇資料のデータベース化の推進

◇収蔵庫管理の推進

◇燻蒸消毒作業
- ・収蔵庫
  ◎燻蒸期間　９月４日(月)～９月11日(月)
- ・小型燻蒸機の運用

展示

◇展示活動
- ・企画展示室における企画展・特別展
  企画展「足もとの久保田城下－掘り出された武家の暮らし－」　４月26日(水)～６月25日(日)
  特別展「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！～」　７月15日(土)～８月27日(日)
  企画展「鳥海山の自然史」　９月23日(土)～11月12日(日)
  企画展「植物を編む－暮らしの中の編組－」　12月２日(土)～平成30年４月８日(日)
- ・出張展示
  秋田県立図書館　４月１日(土)～５月28日(日)（平成29年３月25日(土)から開催）
  旧池田氏庭園　５月20日(土)～６月11日(日)
  秋田県立美術館　６月７日(水)～６月13日(火)
  仙北市田沢湖図書館　７月15日(土)～８月13日(日)
  横手城天守閣　７月20日(木)～８月28日(月)
  白神山地世界遺産センター「藤里館」　８月１日(火)～８月31日(木)
  大潟村干拓博物館　９月28日(木)～11月５日(日)
  大館市立栗盛記念図書館　９月30日(土)・10月１日(日)
  仙北市角館樺細工伝承館　11月10日(金)～１月28日(日)
  秋田県立図書館　平成30年３月24日(土)～５月27日(日)
- ・菅江真澄資料センター企画コーナー展
  「自筆本、春の特別公開～秋田の旅14冊」　５月23日(火)～６月11日(日)
  「旧高橋友鳳子コレクションと真澄」　７月15日(土)～８月27日(日)
  「自筆本、秋の特別公開～雪の出羽路平鹿郡14冊」　９月20日(水)～10月９日(月)
  「雑纂資料の魅力」　10月14日(土)～12月10日(日)
  「真澄、若き日の旅」　平成30年３月17日(土)～５月13日(日)
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展
  「後藤宙外と書簡」　９月23日(土)～11月26日(日)
- ・ふるさとまつり広場
  天神人形　４月22日(土)～６月９日(金)
  七夕絵どうろう　６月10日(土)～８月20日(日)
  野良着　９月22日(金)～11月２日(木)
  ナマハゲ　11月３日(金)～１月31日(水)
  ひな人形・押し絵　平成30年２月３日(土)～４月７日(土)
- ・ロビー展示
  楽しいしぼり染め作品展　７月22日(土)～８月20日(日)

◇博物館教室等

（１）化石と地層の観察会　①観察・採集　5/21(日)
　　②学習会　5/28(日)

（２）釣り教室①～⑤
6/3･24、7/8、9/9･23(いずれも土曜日)

（３）昆虫教室～採集と標本づくり～
7/16(日)、8/20(日)

（４）夜の昆虫観察会　7/22(土)

（５）秋田の温泉への誘い－温泉の魅力を知ろう－
9/16(土)、11/11(土)

（６）博物館周辺の植物観察会　9/30(土)

（７）昆虫同定技術入門　10/9(月)

（８）植物の色をとりだそう　11/18(土)

（９）薬として利用された植物（植物茶を飲みながら）
平成30年2/10(土)

(10) 真澄に学ぶ教室・講読会「秋田の日記を読む」
4/22、5/27、6/24、7/22、8/26、9/23
10/28、11/25、12/16、1/27、2/24、3/17
(いずれも土曜日)

(11) 楽しいしぼり染め（中級コース）
オリエンテーション　5/14(日)午前
技法とデザイン　A：5/23(火)、B:5/24(水)
C：5/25(木)、D:5/26(金)
中間チェック　A・B：6/7(水)午前
C・D：6/7(水)午後
染め　A・B:6/28(水)、C・D：6/29(木)
合評会　7/19(水)午前

(12) 楽しいしぼり染め（研究コース）
オリエンテーション　5/14(日)午後
技法・染め　6/4(日)、6/25(日)、8/6(日)
＋特設１日(任意出席)
合評会　10/1(日)午前

(13) 妖怪入門講座　6/4(日)、6/10(土)、8/12(土)

(14) 昔の日本史・今の日本史
～教科書はこう変わった～
6/17(土)考古・古代編　7/15(土)中世編
8/5(土)近世編

(15) 第１回真澄に学ぶ教室講演会
「真澄と庄内の民俗」　7/8(土)

(16) 三浦館・分館合同見学会　9/29(金)

(17) 古文書修復体験教室　10/7(土)、10/21(土)

(18) 第２回真澄に学ぶ教室講演会
「菅江真澄、考古学への関心」　10/14(土)

(19) 初めての古文書解読　10/29、11/5、11/12
11/19、11/26、12/3(いずれも日曜日)

(20) 秋田の先覚記念室　講演会　11/5(日)

(21) ゼロからはじめるワラ仕事
12/13(水)・20(水)
1/10(水)・17(水)・24(水)・25(木)・26(金)

(22) バックヤードツアー　5/3(水)～7(日)
8/5(土)・6(日)・12(土)・13(日)・19(土)・20(日)
12/23(土)、1/6(土)・7(日)

(23) くん製教室　初級編　9/17(日)

(24) 未来の学芸員養成講座　自然編Ⅰ　7/29(土)

(25) 未来の学芸員養成講座　自然編Ⅱ　8/6(日)

(26) 未来の学芸員養成講座　歴史編Ⅰ　7/29(土)

(27) 未来の学芸員養成講座　歴史編Ⅱ　7/30(日)

(28) 未来の学芸員養成講座　歴史編Ⅲ　8/6(日)

(29) 名誉館長館話－秋田と歴史－（前期）
5/12(金)、6/16(金)、7/14(金)

(30) 名誉館長館話－秋田と先人－（後期）
9/15(金)、10/13(金)、11/10(金)

◇イベント事業

・『軒の山吹』再現　4/26(水)～4/28(金)
・「盆踊りとバリ舞踊と怪談と妖怪展」
7/15(土)
・「資料を聴く～ジャズで奏でる資料の印象」
平成30年３月下旬

◇展示付帯事業

・企画展「足もとの久保田城下－掘り出された武家の暮らし－」　展示解説
・特別展「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！～」
展示解説
・企画展「鳥海山の自然史」　展示解説
・企画展「植物を編む－暮らしの中の編組－」
展示解説

◇県庁出前講座

◇県内外の博物館等類似施設との連携

・日本博物館協会東北支部
・秋田県博物館等連絡協議会
・秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ
・博物館実務実習
・教職10年経験者研修

広報・出版

◇広報活動
・事業に関する広報計画の策定と実施
展示・イベント広報
配布・発送計画
・その他の広報活動の実施と改善
ホームページ、フェイスブックページの充実
プレスリリースの充実
広報資料、出版物等の管理
館内掲示物の管理

◇出版物の刊行・配布
・年報平成29年度　Ａ４判　45頁　1,000部
・博物館ニュース№165・166
Ａ４判　８頁　各2,300部
・秋田県立博物館研究報告第43号
Ａ４判　81頁　600部
・広報紙「真澄」№35　Ａ４判　８頁　1,500部
・真澄研究第22号　Ａ５判　100頁　500部
・特別展「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！～」
展示図録　Ａ４判　100頁　600部
・秋田の先覚記念室企画コーナー展展示解説資料
Ａ４判　８頁　1,000部
・楽しいしぼり染め第14回作品展パンフレット
Ａ４判　８頁　2,000部
・展示ポスター、広報チラシ
企画展「足もとの久保田城下－掘り出された武家の暮らし－」
特別展「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！～」
企画展「鳥海山の自然史」
企画展「植物を編む－暮らしの中の編組－」

学習振興

◇わくわくたんけん室の運営
・一般及び団体利用への支援・指導
・室内・体験アイテムの保守管理
・消耗品等の在庫管理と発注
・体験アイテムの開発及び改善
・他の展示室と連携した企画の計画と運営
・季節アイテム、イベントの計画と運営
・ボランティア・地域との連携
・出張わくわくたんけん室の運営

◇学校団体による博物館利用の支援
・セカンドスクール的利用の支援・指導
・セカンドスクール的利用の促進
・出前授業の利用促進
・学校団体利用数の集計と報告
・職業体験、インターンシップの対応
・「教員のための博物館の日」の実施
・秋田大学地域連携プロジェクトゼミ

分館・重要文化財旧奈良家住宅

◇分館（旧奈良家住宅）
主屋（重要文化財）を平成29年４月１日（土）から平成30年３月31日（土）まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開。附属屋については内部公開の希望に応えるために平成29年９月29日（金）に公開し学芸職員が解説を行うほか、適宜公開する機会を設ける予定である。

Ⅲ　平成28年度事業報告

1　調査研究活動

部門研究は、各部門担当者が継続的に行っているテーマや開催予定の展示に関わる調査が主になっている。研究成果は、当館研究報告ほかの刊行物や、調査研究報告会での報告、企画展等への反映といった形で公開されたものが多い。地域研究については年度内に次期調査の具体的計画の策定に至らなかったため、新年度の早い時期に作業を進める必要がある。

「研究報告第42号」には、９件の論文、報告、翻刻等が掲載された。「真澄研究」には４件の論文、講演記録等が掲載された。

調査研究報告会は例年通り、情報共有を意図した館内での報告会と、秋田県生涯学習センターでの一般公開の形で開催した。

部門研究

◇考古

（１）「先史時代石材資源開発の研究」

珪質頁岩を中心とした産地調査および旧石器・縄文時代の石器を分析し、先史時代における人々の石材獲得地の推定を継続的に行っている。今年度は能代市縄手下遺跡の後期旧石器時代における人々の珪質頁岩の獲得・消費と遺跡形成について調査・分析を行った。その成果は館内調査研究報告会や関連研究会などで公表した。

（２）「最北の陸みち－古代出羽国の駅路に関する一、二の考察－」

『続日本紀』にみえる渤海使の出羽国来着記事に着目して、秋田城の情報機能について考察した。具体的には、異なる時期の同様の出来事に対する続紀記述の精確性の違いに注目して、情報機能が整備された時期について推論し、新羅使来着記事と比較することで、情報機能の具体的な様相に迫った。試論ではあるが、平成28年度の研究報告会で発表した。

◇歴史

（１）「秋田県立博物館における歴史資料の整理と利用」

博物館には歴史資料が8,500点以上所蔵されている。その資料の整理と利用についての一つの提言を行った。博物館が収集すべき歴史資料は、緊急性と重要性のある地方（じかた）文書、モノ資料、近代資料を中心にしていくことが、一つの方向性として考えられる。目録の整備や公開のための規定の作成なども必要である。

（２）「守屋家資料の研究」

昭和50年の開館以来、未整理のままで収蔵されている守屋家資料の整理を行った。整理作業は「秋田県立博物館友の会　古文書整理ボランティア」のメンバーと共に行った。整理作業と並行して嘉永６年（1853）２～12月「公私要用混雑記」を翻刻した。翻刻文は『秋田県立博物館研究報告』第42号に載せている。

（３）「御用聞町人河村家の研究」

河村家の御用聞町人としての活動を研究する計画であったが、その活動は不活発なことが判明し、また河村家などの御用聞町人が藩庁諸部局から公金を貸し付けられていることが分かったため、テーマを広げて藩政改革期の藩の資金調達・金融政策について調査した。研究成果は『秋大史学』に論文掲載を予定している。

◇民俗

（１）「百物語（怪談会）の作法」

平成29年度の特別展「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！」の開催に向け、平成27年度から引き続き県内外の妖怪に関する資料収集を行った。平成28年度は新たな妖怪を生み出す語りの場に注目し、怪談話を語る会の変遷について整理した。怪談話を語る場として、「百物語」が行われることが多い。百物語はある一定の作法に従って行われ、戦国時代頃からはじまったとされ、明治時代以降には新聞社が主催する大がかりな仕掛けをともなった会が行われるようになった。県内でも百物語は少年から農村部の男性達などによって行われていた記述が見られるが、昔話や伝説の中で、化け物が出現するきっかけとして百物語が使われていることも興味深い。

（２）「秋田県内の妖怪の記録について」

平成29年度の特別展「妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！～」の開催に向け、昨年度から収集してきた秋田県内の怪異譚をその種類によって９つのカテゴリーに分類した。さらにそれぞれのカテゴリーにおいて出現地域を取りまとめ、さらに旧郡域や旧市町村ごとに怪異譚の出現状況をグラフ化することで、「狐」は県内全域に怪

異譚が分布するが、「鬼」や「竜」などには地域の偏りが見られるなど、その種類による地域差を明示した。この結果の分析を進め、展示に活用する予定である。

◇工芸

（1）「秋田県内におけるケラの製作技術」

ワラ細工については、これまで履物類を中心に調査を進めてきたが、平成26年度からは対象を被服類に移し、特にケラの製作技術に焦点を当てた調査を実施している。

平成28年度は、由利本荘・にかほ地域および大館・鹿角地域県南地域の資料館11館で、48点の資料について製作技術の細部にわたる調査を行うとともに画像データとして記録に残し、現時点での調査内容をまとめることができた。今後は、把握していない地域や追調査の必要な部分を補いながら秋田県全体及び県内各地域の製作技術の特徴としてまとめたい。

（2）「秋田県内における編組品からみた地域性」

現在、県内の編組品の調査をすすめている。編組品はかつて自家生産で賄われていたが、需要が高まり、素材と職人、販路等の条件が整った地域では、集団的に製作され、産物として地域の内外に流通したことが記録にもある。そのうち、平成28年度は鹿角市草木、秋田市金足浦山において調査を実施した。

編組品を素材・技術の観点から見ると、地域的に偏った分布を示す植物と土地特有の技術との間には相関関係が予想される。今後、調査事例を蓄積し比較検討することで、編組品の地域性を描き出していきたい。

◇生物

（1）「秋田県に生息する希少動物の生態調査」

森吉山に生息するクマゲラと秋田市の繁華街で営巣するチョウゲンボウ、東成瀬村で繁殖するキタオウウサンショウウオの産卵生態を調査した。クマゲラは雄の存在は確認したものの２年続けて営巣には至らず、チョウゲンボウも繁殖しなかった。キタオウシュウサンショウウオは産卵する水槽に種不明の幼虫が入っており、いる間は産卵しなかったが、除去後は無事に産卵した。成果としては大きくないが、継続観察の中でそれぞれが持つ意味は小さくないと思われる。

（2）「秋田県産カザリバガ科の標本収集とリスト作成」

以前から継続している小蛾類の調査の一環として、カザリバガ科のとりまとめを行った。新たな標本の追加はあまりできなかったが、未同定だった標本を精査した。これまで７種だけが既報だったのに対し、35種（５不明種含む）を見出すことができ、秋田県産のこの科に関する知見を大幅に増やすことができた。

（3）「植物を中心とする天然染料・顔料について」

生物が受容する色に関する基礎調査として、多様な生物の光や色の受容についての文献資料を集めた。また自然界に存在する天然の染料・顔料のうち、秋田県内の歴史・民俗資料と関連する資料を調査した。秋田の工芸として注目され伝承されている染色植物以外については地域性のあるものを見つけるのが困難であった。

◇地質

（1）「寒風山の風穴調査」

寒風山に風穴が存在することは広く知られている。地元では、これまで知られている場所以外にも、風穴と思われる場所があると言われていた。今回、男鹿市在住の方より未知の風穴と思われる場所の情報を提供していただき、詳しい場所が判明したため調査を行った。調査は該当する場所に温湿度計を設置して記録をとり、もよりの気象庁の観測所のデータと比較し、温度変化を調べる方法をとった。温湿度計による計測は今後も継続して、データの収集を行う。

（2）「秋田県の温泉と地質」

秋田県の温泉を化学的な視点から分類し、温泉の地域的な特色や各温泉の成因となる泉源地周辺の地質構造について考察している。平成28年度は、その基礎となる温泉の定義を整理するとともに、秋田市の温泉について分類した。今後、他市町村の分類を進め、比較し、地域的特色や地質構造について明らかにしていくことになる。

◇秋田の先覚記念室

（1）「秋田の先人に関する資料調査」

平成28年度は町田忠治、成田忠久、多田等観、根本通明関係の資料が先覚記念室に寄贈となった。特に多田等観資料については、平成27年度から引き続き受入の手続きを行っている。遺品や資料の中には名称や由来が不明なものも多く、大学などの関係機関より助言や協力をいただき特定を行った。しかしながら、寄贈となった資料の所有者も御高齢なことから、由来や年代等が不確定なこともあり、今後も聞き取りを行い継続的な調査が必要と思われる。

◇菅江真澄資料センター

（1）「反故紙と茶色白格子模様表紙に関する一考察」

菅江真澄が医者であったとの客観的な証拠は、《花のいではぢ松藤日記》の表表紙裏打紙、つまり反故紙が示す医療行為だけである。同様のことは、かつて報告された《風の落葉一》《同二》《さくらがり下》の反故紙からも知られる。四冊の反故紙にある地名や人名から浮かび上がるのは、武家や庶民に対する医療行為を、現在の大館・北秋田で文政年間のはじめに行っていた事実である。四冊の反故紙がある程度連続することは、全ての表紙が茶色白格子模様であることからわかる。同じ表紙は17冊ある。それらの本文内容や反故紙を検討し、装幀された年代の上限を調べると文政５年秋～同７年８月までの２年間と推測できる。真澄は地誌の巡村調査を前に、書斎にあった草稿やメモ等を整理するため、多くは雑纂に分類されるそれらの冊子を装幀したものであろう。

共同研究、博物館学的研究

◇共同研究

（1）「久保田城下の生活誌」　（考古・歴史）

平成29年度企画展「足もとの久保田城下」に向けた調査研究を進めた。考古部門では、発掘された武家屋敷や久保田城の堀からの出土品、遺構をもとに、久保田城下の武家屋敷の変遷や、武家のくらしについて検討している。歴史部門では絵図や古写真から久保田城下の成り立ちについて調査を進めた。

（2）「川口渓谷周辺の土壌重金属と植生の関係」

（県立大・生物）

渓谷のある和賀山塊周辺は、10数年にわたって周辺全体の植物相が調べられてきた地域である。本調査は、過去の調査と比較しその変化を探るとともに、新たに土壌調査を行い、上流の川口鉱山（銅山）と植生との関係性について考察することを目的として３年計画で開始した。平成28年度は、川口渓谷周辺土壌の重金属濃度を測定し、土地の傾向を考察した。

（3）「博物館職員と大学生とが「協働」する試み－「秋田大学地域連携プロジェクトゼミ」実施報告－」

（博学）

平成28年度より始まった「秋田大学地域連携プロジェクトゼミ」について、その受け入れから実施の過程についてまとめ、展望を示した。研究報告第42号に概要を載せた。

なお、ゼミにおいて学生が開発したアイテム「プラ板銀線細工」は、平成29年度に「わくわくたんけん室」で採用する予定である。

館内調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

標記の会を平成29年１月30日（月）に本館大会議室で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順）。

（1）旧川口鉱山周辺の土壌重金属濃度と植物相　浅利絵里子
（2）寒風山の風穴について　鈴木秀一
（3）秋田の温泉と地質　簗瀬圭二
（4）秋田県のカザリバガ科蛾類の知見　梅津一史
（5）秋田県内における編組品の調査研究　斉藤洋子
（6）秋田県内におけるケラの製作技術　藤原尚彦
（7）秋田県内の妖怪の記録について　小野寺康
（8）来館者アンケートからみる博物館評価　船木信一
（9）秋田県立博物館における歴史資料の整理と利用についての覚書き　佐藤　隆
(10) 多田等観資料について　池端広樹
(11) 最北の陸みち－古代出羽国の交通路に関する一、二の考察－　伊藤　真
(12) 能代市縄手下遺跡にみる石器原料の獲得消費活動遺跡形成に関する事例分析　吉川耕太郎
(13) 嘉永６年波宇志別神社神主守屋左源司の領外追放について　畑中康博
(14) 百物語（怪談会）の作法　丸谷仁美
(15) 寛政～文政期の秋田藩における行政資金の調達と金融政策　新堀道生
(16) 反故紙と茶色白格子模様表紙に関する一考察　松山　修

◇調査研究報告会（公開報告会）

標記の会を平成29年３月19日（日）に生涯学習センター３階講堂で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順）。一般参加者数は68名であった。

（1）秋田県産カザリバガ科蛾類の知見　梅津一史
（2）ザル・カゴに地域性はあるのか？－素材と技術からみた編組品の研究－　斉藤洋子
（3）秋田県内におけるケラの製作技術　藤原尚彦

（4）最北の陸みち－古代出羽国の駅路に関する一、二の考察－　伊藤　真
（5）嘉永六年波宇志別神社神主　守屋左源司の領外追放について　畑中康博
（6）寛政～文政期の秋田藩における行政資金の調達と金融政策　新堀道生

研究報告等の発行

◇『研究報告』第42号

秋田県に初漂着したダイオウイカ　船木信一
秋田県男鹿半島鵜ノ崎の中・上部中新統（西黒沢層・女川層）に含まれる炭酸塩コンクリューション中の脊椎動物化石の産状　渡部　晟　他
秋田県・岩手県内遺跡出土黒曜石製石器の原産地推定　吉川耕太郎　他
博物館職員と大学生が「協働」する試み－「秋田大学地域連携プロジェクトゼミ」実施報告－　伊藤　真　他
新聞記事からみた秋田のくらし・行事－昭和30年代後半を中心に－　丸谷仁美
秋田県南部の編組品調査－横手市金沢・仙北郡六郷町東根の事例から－　斉藤洋子
名誉館長館話実施報告抄　新野直吉
［翻刻］茂木久栄資料「万代日記帳」　新堀道生　他
［翻刻］守屋家資料　嘉永六年「公私要用混雑記」　畑中康博　他

◇『真澄研究』第21号

「真澄と秋田の国学者」　新野直吉
「講演記録　遊覧記と全集出版の偉業－内田武志の軌跡Ⅳ」　石井正己
「講演記録　菅江真澄と北国の椿伝説」　永井登志樹
「反故紙と茶色白格子模様表紙に関する一考察～くすしの証明と地誌編纂前夜の装幀」　松山　修

2　資料収集管理活動

平成28年度中に寄付等で新たに登録された資料は10,016点であった。

収蔵スペースの不足は抜本的な解決の目処は立たず、新たな棚の設置も限界に近い。収蔵庫以外の場所に置かれている資料も少なからずある状態である。

長期間にわたる寄託はなるべく解消する方向であり、更新手続きの機会に寄託者の意向を確認しながら、可能な場合には寄託解消または寄贈への切り替えを勧めている。

展示室や作業室で、自然史資料への虫害が発生しており、燻蒸による対応も含め環境管理により留意する必要がある。

資料収集・整理・保存・管理

◇平成28年度収集資料一覧

部門	資　料　名	数量	受入区分
歴史	古文書	1	寄付
	石澤隆太郎シベリア抑留関係資料	12	寄付
	秋田駅自動券売機案内表示	1	寄付
	日章旗　ほか	4	寄付
	［映像］秋田の鉄道	2	寄付
	鉄道実物資料　他	6	寄付
	バス前面方向幕巻取器	5	寄付
考古	寛永通宝	1	寄付
	山下孫継資料	1	寄付
民俗	婚礼道具	1	寄付
	八橋人形　他	10	寄付
	書籍など	12	寄付
	文書など	10	寄付
	八橋人形	19	寄付
	ダオボッチ	1	寄付
	もんぺ　他	9	寄付
	着物、帯、かんざし、扇子	4	寄付
	蠅帳、スケート、ジャッキ	3	寄付
小　計　（件数）		102	(18)

部門	資　料　名	数量	受入区分
生物	ツクシイワヘゴ	1	寄付
	ガロアムシ	1	寄付
	ヤブヤンマ	2	採集
	クサガメ　他	13	委託製作
	陸産貝類標本	8,159	寄付
	植物標本(さく葉標本)	194	寄付
	ガッサントリカブト　他	3	寄付
	ハタハタ（骨格標本）	2	委託製作
	オビウシノシタ（アクリル封入標本）	2	委託製作
地質	貝化石	1,503	採集
先覚	書（扁額）	1	寄付
	根本通明関係資料	32	寄付
真澄	板壁	1	寄付
小　計　（件数）		9,914	(13)
合　計　（件数）		10,016	(31)

◇平成28年度資料収集状況

平成29年３月末日現在の資料総数（　）は平成28年度分

	購　入	寄　付	委託製作	所管換え	採　集	その他	合　計
総集	2,917	137	626	18	0	0	3,698 (0)
美術	415	25	2	8	0	0	450 (0)
工芸	7,371	6,326	1	13	0	0	13,711 (0)
歴史	5,125	3,087 (31)	113	184	0	73	8,582 (31)
考古	245	2,172 (2)	31	190	0	0	2,638 (2)
民俗	2,280	7,608 (69)	120	36	4	0	10,048 (69)
生物	17,345	84,084 (8358)	7,728 (17)	36	1,654 (2)	0	110,847 (8,377)
地質	3,556	2,871	1,408	18	9,148 (1,503)	0	17,001 (1,503)
先覚	131	5,026 (33)	12	0	0	2	5,171 (33)
真澄	143	1,756 (1)	11	300	0	0	2,210 (1)
合計	39,528 (0)	113,092 (8,494)	10,052 (17)	803 (0)	10,806 (1,505)	75 (0)	174,356 (10,016)

◇平成28年度館蔵資料貸出状況

目的別

貸出先		県内外別			目的別				
		県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等		4	2	6	6	0	0	0	6
教育機関	大学	0	0	0	0	0	0	0	0
	高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学校	1	0	1	1	0	0	0	1
	小学校	3	0	3	0	0	3	0	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
研究所・文化団体		0	0	0	0	0	0	0	0
出版報道機関		0	0	0	0	0	0	0	0
都道府県		0	0	0	0	0	0	0	0
市町村		3	0	3	2	0	0	1	3
個人		0	0	0	0	0	0	0	0
計		11	2	13	9	0	3	1	13

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。

◇平成28年度資料特別利用状況

目的別

利用者		県内外別			目的別						
		県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他
博物館	都道府県立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市町村立	1	3	4	2	0	0	0	2	0	0
	その他	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0
企業	出版	8	23	31	29	0	1	0	0	1	0
	映像	1	5	6	0	6	0	0	0	0	0
	TV	4	3	7	0	7	1	0	0	0	0
	その他	7	0	7	2	0	3	0	1	1	0
教育機関	大学	2	1	3	2	0	0	0	1	0	0
	その他	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
都道府県		5	1	6	0	0	4	0	3	0	0
市町村		9	1	10	2	1	6	0	1	0	0
個人		15	3	18	7	0	4	0	1	6	0
計		54	40	94	45	14	19	0	10	9	0

部門別

部門	利用数	利用内容					
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	その他
工芸	3	1	3	0	0	0	2
考古	5	0	5	1	0	0	3
歴史	31	2	28	10	3	0	13
民俗	14	2	12	8	1	0	3
生物	1	0	1	1	0	0	0
地質	1	0	1	0	0	0	0
先覚	10	1	10	7	0	0	1
真澄	28	0	23	22	2	0	3
その他	1	0	1	1	0	0	3
計	94	6	84	50	6	0	28

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。
※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者の合計とが異なっている。

デジタルアーカイブ資料

平成24年度の「デジタルアーカイブ＆アプリケーション開発事業」では、５年計画で順次コンテンツを追加していくことになっており、平成28年度が最終年度となった。予定されていた資料の画像と解説を年度中に追加するとともに、前年度までにアップロードしていた内容の加除・修正も行った。

燻蒸消毒および虫・菌害管理

燻蒸消毒は平成28年９月１日（木）～９月８日（木）に、酸化プロピレン製剤（商品名アルプ）を使用し、３階収蔵庫のうち生物・歴史・美術工芸・寄託収蔵庫を燻蒸した。小型燻蒸機は酸化エチレン製剤により、寄贈・借用資料の搬入時に使用した。28年度の稼働回数は11回であった。

3　展示活動

平成28年度の特別展は文化庁の巡回展である「発掘された日本列島2016」を開催した。会期中の解説ボランティアなど、新しい試みも成功したと思われる。

企画展のうち、「博物館の舞台裏で」は、博物館職員の活動そのものをテーマにした展示で、当館としてはこれまでにない挑戦的なものであったが、観覧者の反応はおおむね良好であった。

平成27年度末に当館に寄贈されたダイオウイカは、自

然展示室の一角に常設の形で展示された。これを目当てにした来館者も相当数に上り、標本化した担当者の苦労が報われたのではないだろうか。

人文展示室の可変展示コーナーで工芸資料の刀の鍔の展示、ふるさとまつり広場で笊や箕の展示を行うなど、従来の各展示空間の位置づけからやや踏み出した企画も実施してみた。周辺の展示空間との違和感が生じないよう留意しつつ、今後もこうした企画を考えたい。

出張展示は軌道に乗ってきた感があるが、館内の諸々の事業との時期の重なりの調整など、実施方法を改善しつつ進めていきたい。

企画展ほか

◇企画展「博物館の舞台裏で」平成28年４月23日(土)～平成28年６月19日(日)

＜展示概要＞

秋田県立博物館には、秋田の自然や文化にまつわる資料が多数展示されている。しかし、博物館に収蔵されている資料は16万件ほどあるが、展示されているのは１割にもいたらない。ほとんどの資料は収蔵庫に収められ、静かに保存されている。

博物館の職員は、膨大な資料を後世に残すために管理を行い、また様々な研究を行って資料から情報を抽出し、その成果を展示や博物館教室などで報告している。

この展示では、博物館の舞台裏で行われている、普段見ることができない学芸員の仕事や資料にまつわる事柄、博物館に関わる人たちを紹介した。

＜展示構成＞

①博物館とは？
　博物館について（機能、種類、館数、入館者数等）
　秋田県立博物館について

②博物館のお仕事
　資料の扱い（収集、保存、収蔵庫に関係すること）
　展示にまつわる技術的なこと
　アウトリーチ活動（出張展示）

③学芸員のお仕事
　各部門の目的、活動内容
　主な収集資料
　各部門の代表的な仕事や使用する道具を紹介する

④博物館にかかわる人達
　各ボランティア
　秋田県博物館等連絡協議会

＜付帯事業＞

①舞台裏ガイドツアー
　普段入ることのできない博物館の活動の裏側を、職員の解説つきで案内した。

（４月29日～５月８日）

担当：鈴木秀一（普及・広報）

◇企画展「秋田の昆虫」平成28年７月16日(土)～平成28年８月28日(日)

＜展示概要＞

秋田の昆虫の図鑑的網羅を目指してなるべく多くの種を展示するとともに、現在進行中のトピックも紹介する。秋田の昆虫相把握の現状を紹介し、今後の課題や可能性を提起する。

＜展示構成＞

①秋田の昆虫実物図鑑
　秋田県産昆虫約1,300種を展示し、１種ごとに分布や生態についての簡単な説明を付けた。２～３mmの微小な昆虫もあえて展示して、昆虫の多様性をより印象づけることを狙った。また、チョウに限定した人気投票を行い、標本を改めてよく見るきっかけとした。

②秋田の昆虫名所めぐり
　秋田県内の特徴的な昆虫相を持つ地域や、注目すべき種が見られる地域を写真を中心に紹介。

③秋田の昆虫の今
　絶滅危惧種、外来種、偶産種など、最近の話題を紹介。

④昆虫クイズ
　シルエットクイズ、どアップクイズ、標本クイズ（チョウとガの区別、ハチとハチ擬態種の区別な

ど)、虫偏漢字クイズなど、幼児から大人までそれぞれ楽しめるよう、さまざまなクイズを用意。

⑤昆虫を調べよう

県内の標本に基づく新種や未記載種、なぜか秋田ではまだ見つからない種など、秋田の昆虫相解明の現状と、新発見が期待される課題などを紹介。

＜付帯事業＞

①展示解説（７月16日・31日、８月13日）

担当：梅津一史（生物）

◇特別展「発掘された日本列島2016」平成28年9月22日(木・祝)～平成28年10月30日(日)

主催：文化庁・秋田県立博物館・秋田魁新報社・全国新聞社事業協議会

共催：全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会・全国埋蔵文化財法人連絡協議会
公益財団法人元興寺文化財研究所・共同通信社・秋田県埋蔵文化財センター

＜展示概要＞

文化庁主催の全国巡回展で、秋田では17年ぶりの開催となった。旧石器時代から近代まで、日本全国から選りすぐりの全36遺跡の発掘成果が一堂に会して、考古学の最前線に触れる機会となった。考古学ファンのみならず、展示室ではじっくり展示品を観覧する姿が目立ち、県民が埋蔵文化財に親しむ好機会となった。とくに特集１・２は自然災害と人々の歴史について考えてもらうことができた。また、会期中は秋田大学・秋田公立美術大学・国際教養大学の学生による展示解説ボランティアを実施し、学生や観客から好評を得た。

＜展示構成と主な展示資料＞

①中核展示：新発見考古速報

特集１：復興のための文化力

特集２：復興の歴史を掘る

②地域展示：秋田にきたモノとヒト

担当：吉川耕太郎（考古）
伊藤　真　（考古）
新堀道生　（歴史）
斉藤洋子　（工芸）

◇企画展「四季のたのしみ　くらしのいろどり」平成28年11月19日(土)～平成29年４月２日(日)

＜展示概要＞

昭和30年代後半は、県内の人々の生活に大きな変化を生むことになった。電化製品の普及により、人々の暮らしが豊かになりつつある一方で、出かせぎや集団就職で青年達が数多く離れていった時であった。また、秋田国体や東京オリンピックを契機に、各地で行われていた祭り・行事を「見せる祭り」にしようとする意識が生まれつつあった時期でもあった。本展では、昭和30年代後半の秋田の生活を四季ごとに紹介した。その中で、時代の変化が、人々の暮らしや祭り・行事にどのような影響を与えたかについて触れ、今日まで継承されているさまざまな行事の変遷の要因について考えてみた。

＜展示構成＞

①冬から春へ

月の満ち欠けと正月行事　新たな行事のはじまり　雪国の春　健やかな成長を願う

②春から夏へ

秋田の天神信仰　わざわい来るな！　秋田の鹿島信仰　夏祭りツアーの誕生　農具の変遷　「金の卵」の誕生

③暮らしのなかで

便利な道具　普及する電化製品　消えゆく八郎潟

④夏から秋へ

先祖をまつる・先祖になる　豊作を祝う　さまざまな芸能

⑤秋から冬へ

みんなで祝う結婚式　出かせぎ者を送る　一年の無事を感謝する　秋田県人と酒

⑥秋田を売り出す

秋田国体と東京オリンピック　観光と秋田　民芸品、世界へ

＜付帯事業＞

①展示解説　(11月26日、12月３日・24日　１月７日・28日、２月12日・18日、３月４日)

②イタヤで弁当箱を作ってみよう　(３月12日)

③民俗芸能公演　本海獅子舞番楽前ノ沢講中　(３月26日)

担当：丸谷仁美・小野寺康（民俗）

◇菅江真澄資料センター　企画コーナー展

〔第70回企画コーナー展〕菅江真澄のふるさと

７月16日(土)～８月28日(日)

菅江真澄の故郷（ふるさと）はどこか。これは真澄研究が始まって以来の課題であり、最大の謎ともなっています。以前から岡崎説と豊橋説が唱えられていますが、その両説がある一方で、「三河国人」を自称する真澄について、故郷を厳密に特定する意味はあるのだろうかという疑問も呈されています。

展示では、真澄の故郷を岡崎と豊橋のどちらかに決することを目的とはせず、資料を整理しながら、真澄の故郷をとらえ直してみました。

〔第71回企画コーナー展〕真澄クイズに挑戦

10月22日(土)～12月18日(日)

菅江真澄資料センターでは、展示や博物館教室などの活動の際、真澄に関するクイズを出題することがあります。これは、クイズをきっかけにして真澄の記録に親しんでいただくとともに、記録を深く読み解くきっかけになればと考えてのことからです。真澄の図絵や文章には、真澄が生きた時代を知るたくさんの事柄が含まれています。ただし、読む人の知識や興味によって、注目する事柄や言葉はさまざまです。クイズを手がかりに、それまで気づかないような新たな事柄に目を向けることができるのではないでしょうか。

クイズは全部で50題。県内の日記９題、県外の日記９題、遺墨資料６題、日記以外の著作６題、月の出羽路仙北郡20題について、一部の資料を展示しながら出題し、解説資料で答えと解説を示しました。

〔第72回企画コーナー展〕《水の面影》探訪

平成29年３月18日(土)～５月14日(日)

秋田市寺内は、近年、古代秋田城の発掘調査と整備が進み、北辺に位置した大規模な地方官庁の姿が明らかになってきました。ここは古代から「高清水岡」と呼ばれ、また、高泉郷と記された土地だったと考えられています。真澄の時代には、久保田城下から土崎港へと続く街道上の故地として、また、古四王神社などがある信仰の土地としても名高いところでした。これらのことから、真澄も、寺内が古くからの歴史のある土地で、名所として称揚されるべき土地だとする認識を持っていたようです。

展示では、真澄が文化９年(1812)春に寺内地区を巡った《水の面影》について、その書誌を紹介するとともに、記述内容について紹介しました。

担当：松山　修（真澄）

◇秋田の先覚記念室　企画コーナー展

「子どもに伝えたい秋田の先人」

－成田為三　石川理紀之助　白瀬矗－

9月24日(土)～11月27日(日)

＜展示概要＞

秋田の先覚記念室が平成８年に開設以来、今年で20年が経過した。平成28年度は「子どもに伝えたい秋田の先人」と題して子ども向けの展示を企画した。

秋田の先人には音楽家の「成田為三」、農業指導者の「石川理紀之助」、世界的な探険家「白瀬矗」の３名に絞り、展示・解説を行った。また、付帯事業として、「博物館で聞く成田為三の世界」としてバイオリンによるロビーコンサートを開催し、多くの来館者に成田為三の童謡を聞いていただいた。

＜展示構成＞

①「先人」て何だ？

②あなたの「秋田の先人」はだれですか？

③音楽家　成田為三（少年時代の為三・音楽との出会い・県民歌の作曲者）

④農業指導者　石川理紀之助（理紀之助誕生・「適産調」開始・寝ていて人を起こすこと勿れ）

⑤探険家　白瀬矗（幼少期と佐々木節斉との出会い・知教から矗へ・北極探検から南極探険への転換・南極探険・帰国とその晩年）

⑥先人の功績を受け継ぐもの

なお、成田為三資料の多くは、北秋田市の浜辺の歌音楽館からの借用となった。また、潟上市郷土文化保存伝習館からは石川理紀之助資料、にかほ市の白瀬南極探険隊記念館からは白瀬矗資料の多くを借用させていただいた。

担当：池端広樹（先覚）

◇可変展示

〔人文展示室〕

当館には工芸部門の常設展示スペースがなく、工芸部門の資料を日常的に展示する機会が少ない。しかし収蔵庫には貴重な資料も多いため、人文可変展示コーナーを活用し、来館者に秋田の工芸資料に興味関心を深めてもらう目的で、平成28年5月13日（金）～12月25日（日）、「秋田の金工～鐔にみるわざと美～」と題した展示を行った。江戸時代に秋田で活躍した鐔工と、鐔工が製作した鐔について紹介した内容となっており、３代佐竹義処に抱えられた鐔工、初代秋田正阿弥（正阿弥伝兵衛）が製作した鐔など、11点の作品を展示した。合わせて、期間中ギャラリートークも10回程実施した。

刀剣ブームと相まって、高校生からお年寄りまで幅広い世代に興味を持っていただけた。特に、現代の金属工芸においてもアクセサリーなどに用いられる金属加工技術、杢目銅を考案開発した人物が、初代秋田正阿弥、正阿弥伝兵衛であることについて驚かれる来館者が多く、展示を通じて秋田の優れた金属工芸技術について理解を深めてもらうことができた。

担当：斉藤洋子（工芸）

〔自然展示室〕

例年自然展示室の可変展示は２回行うが、平成28年度は１回だけとした。これは27年度末に当館で標本化したダイオウイカの液浸標本を28年度開始と同時に常設展示としたところ、見学や問い合わせが多くなり、これに対応するために詳しい説明が必要になったためである。

近年ダイオウイカの日本海での漂着は増加傾向にあるが、秋田県内での漂着は初めてで、かつ今までの国内の確認の中で最北の記録である。今回の展示では、ダイオウイカが秋田に漂着した意味を日本海固有水と極前線、季節風という３つの要素で考察した。子どもは標本自体の大きさに驚き、大人は漂着の科学的背景を知ろうとする姿が多く見られた。また、ダイオウイカの標本化はコストも時間もかかるが、低予算と僅かな時間で標本化した工夫をビデオにして公開したところ、多くの来館者に最初から最後まで見てもらうことができ、同時に博物館業務への理解を得ることができた。

担当：船木信一（生物）

〔ふるさとまつり広場〕

平成28年度は民俗部門だけでなく、工芸部門・考古部門との連携による展示を試みた。このことによって資料の多面的な視点からの解説と展示分野の拡大が図れたと考える。

他分野と連携した展示は、展示機会の少ない資料を紹介する機会を増やし、本館の入口スペースであるふるさとまつり広場の多様性を向上させることができ、より動きのある博物館をアピールすることにもつながった。

平成29年度以降の内容については、年中行事に関わる資料紹介など季節感のある展示は堅持しつつ、各部門間において収蔵資料の共通理解を進め、それぞれの強みを引き出しあえるような展示のあり方を模索していきたい。

－平成28年度の展示－

鹿島流し　４月12日(火)～６月12日(日)

七夕絵どうろう　６月14日(火)～８月21日(日)

秋田の手仕事～箕と六郷ざる～
９月13日(火)～10月30日(日)

秋田の凧　11月１日(火)～12月25日(日)

「おいしい」をいろどる秋田のやきもの
12月27日(火)～平成29年２月19日(日)

ひな人形・押し絵（日米ならんですまし顔？－「青い目の人形」の90年－）　２月25日(土)～４月４日(火)

担当：丸谷仁美・小野寺康（民俗）
斉藤洋子（工芸）
伊藤　真（考古）

〔ロビー展示〕

博物館教室「楽しいしぼり染め」第13回作品展
７月23日(土)～８月21日(日)

博物館教室「楽しいしぼり染め」は、生涯学習の振興と伝統的な絞り染めの技術の保存、伝承を目指し、平成９年度より毎年実施している。作品展は、教室における受講者の意欲の向上や、受講者同士の交流による技術の向上を図るため、11年度より開催している。今回は、27年度の教室の受講者123名の作品の中から浴衣をはじめとする113点を展示するとともに、館蔵の関係資料の展示や担当職員と受講者有志による実演も行った。年を追うごとに様々な意匠の作品や技法に工夫を凝らした作品が数多く見られ、受講者はもとより多くの来館者から好評を得ることができた。

担当：藤原尚彦（工芸）

◇出張展示、他施設との連携展示

①「昭和40～50年代を行く」　（秋田県立図書館）
平成28年３月26日(土)～５月29日(日)
観覧者：6,524名

②「古イイ看板2016in鹿角」
（鹿角市文化の杜交流館　コモッセ）
３月30日(水)～４月27日(水)　観覧者：3,322名

③「オーストラリアの風変わりなほ乳類たち」
（横手城天守閣）
５月17日(火)～６月12日(日)　観覧者：1,426名

④「大潟村で考古学！～八郎潟周辺地域の縄文時代を中心に」　（大潟村干拓博物館）
６月15日(水)～７月18日(月・祝)　観覧者：1,580名

⑤「菅江真澄が描いた美郷町の清水」－湧水自然フォーラム全国大会inみさと－　（美郷町公民館）
７月１日(金)　観覧者：約100名

⑥「水底の宝石展」　（仙北市田沢湖図書館）
７月16日(土)～８月８日(月)　観覧者：532名

⑦「まるごと体験！あきたのジオパーク」
（秋田拠点センターALVE）
８月19日(金)　観覧者：約100名

⑧「秋田のトンボ」
（白神山地世界遺産センター藤里館）
９月９日(金)～28日(水)　観覧者：1,866名

⑨「真崎文庫の中の菅江真澄とその魅力」
（大館市立中央図書館）
10月29日(土)・30日(日)　観覧者：43名

⑩「秋田市電にゆられ展」　（秋田県立図書館）
平成29年３月25日(土)～５月28日(日)
３月31日(金)まで年度内観覧者：1,825名

展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。温湿度測定はデータロガーによる計測に全面移行した。また常設展示の清掃を定期的に実施した。

解説案内サービス業務

来館者の方々に、親しみある解説活動を実施するために、次の３点の重点項目を設定して解説業務を行った。

（１）展示内容の正確な理解と来館者に応じたわかりやすい解説の創意工夫

（２）誠意ある応対の実施

（３）職員内情報を共有し来館者対応に活かす

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Q&Aを分担した。平成28年度も平成27年度に引き続き冬期間にQ&A作成に重点的に取り組んだ。また、９月１日には秋田市内の類似施設への研修を行い、解説業務の研鑽を積んだ。

分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成28年４月１日から平成29年３月31日まで公開した。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開した。附属屋については内部公開の希望に応えるために、平成28年８月27日（土）に公開し、担当学芸職員が解説を行った。なお、８月27日は秋田市金足黒川にある三浦館（重要文化財）の見学もあわせて行った。

4　教育普及活動

博物館教室は平成27年度より教室数がさらに増加した。また、博物館利用が薄い層を対象にした教室を試行し、前年を大きく上回る参加者を得ることができた。

ミュージアムトークは実施方法と時期を再検討し、平成27年度を大幅に上回る70回606名の参加があった。

イベントは、４月下旬に『軒の山吹』再現をアイリスの会の協力を得て実施（209名来館）、７月には平成27年度から開始した夜イベントをさらに内容を拡充して「盆踊りと昔語りと手仕事の夕べ」を分館で実施（193名参加）、文化財の新しい活用策を模索し、多くの来館者に好評を得た。また、来館者以上に出演者がお互いに楽しむイベントとなった。

県内博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会加盟館に対しての燻蒸サービスや、秋田市文化施設連絡会議(みるかネット)の事業であるギャラリートークセッション等へ参加した。また、日本博物館協会東北支部の幹事館として、10月下旬に総会、研修会等を滞りなく実施した。

友の会では平成28年度から「古文書同好会」が立ち上がったほか県内若手研究者の発表の場として講演会を行った。ボランティア「アイリスの会」では、館外でワラ細工体験を実施するなど、活動の場が広がりつつある。

教職10年経験者研修、博物館実務実習、企業行政研修等各種研修に対応するとともに、出前講座、県立大学や総合教育センターでの講義等の講師を務めた。

普及行事

◇博物館教室

平成28年度は38の博物館教室が計画され、予定通り実施された。のべの参加人数は2,377名で、平成27年度に比べると460名の増加であった。平成28年度は平成27年度に引き続き、シリーズものでの開催が顕著であった。教室数は平成27年度比で11増加し、親子向けの他に、高校生や父親世代を新たにターゲットとした教室を新設した。

◇名誉館長館話

前期３回を「秋田と歴史」、後期3回を「秋田と先人」と題して予定通り実施した。「『鹿の角』ではなかった『カヅノ』」、「『平田篤胤』と久保田の逆縁」など、今年度も興味深い独自の切り口からのテーマが選ばれ、参加者の満足度の高い内容となった。

	教　　室　　名	人数
1	「真澄に学ぶ教室」講読会	259
2	舞台裏ガイドツアー	161
3	楽しいしぼり染め－中級コース－	255
4	楽しいしぼり染め－研究コース－	258
5	発掘された日本列島2016を楽しむ方法	48
6	すごいパパになろうⅠ釣り名人になる！	45
7	化石と地質の観察会	30
8	秋田の先覚講演会１	9
9	初めての古文書解読	93
10	すごいパパになろうⅡ家族を守る英雄になる！	7
11	「真澄に学ぶ教室」講演会第１回	57
12	昆虫教室	40
13	秋田の先覚講演会２	20
14	子どもと大人の土器作り教室	31
15	すごいパパになろうⅢザッコ捕りの名人になる！	2
16	夜の昆虫観察会	17
17	高校生のための秋田学	21
18	親子で楽しむ藍染め教室	20
19	すごいパパになろうⅣ潜水の達人になる！	2
20	石器づくり教室	17
21	すごいパパになろうⅤ貝捕りの名人になる！	5
22	アイの生葉で染める	32
23	幕末秋田藩講話会	334
24	すごいパパになろうⅥくん製作りの名人になる！	8
25	三浦舘・旧奈良家住宅合同見学会	4
26	民俗学入門講座	47
27	「真澄に学ぶ教室」講演会第２回	42
28	誰かに話したくなる考古・日本史	36
29	絵筆で描く出土品	6
30	里山の植物観察会	5
31	昆虫同定技術入門	5
32	秋田の先覚講演会３	40
33	すごいパパになろうⅦ玩具作りの名人になる！	4
34	秋田の先覚講演会４	80
35	古文書整理と修復の体験会	22
36	ゼロからはじめるワラ仕事	70
37	考古資料整理・分析法	27
38	資料を食べよう	6
合　　計		2,165

名誉館長館話		人数
前期	秋田と歴史	102
後期	秋田と先人	110
合　　計		212

◇県庁出前講座

平成28年度の県庁出前講座は、以下の６テーマで行われた。

①博物館資料から考える秋田の原始・古代(考古部門)

②博物館の魅力について（普及・広報班）

③秋田のくらし・行事（民俗部門）

④秋田県の絶滅のおそれのある野生生物（生物部門）

⑤秋田の金工（工芸部門）＝新規

⑥ハチ公にみる人の世（歴史部門）＝新規

平成27年度の実績（５講座402名）に比べ、講座実績が倍増した（11講座495名)。

内訳は、平成27年度が民俗４・考古１であったが、平成28年度は民俗４・歴史４・考古２・生物１となっており、民俗・考古は相変わらず要望が多く、新規の歴史講座も市町村の高齢者向けの生涯学習講座を中心に要望があった。

当館では、上記の県庁出前講座以外に、専門分野について直接職員に講座の申込がくる場合があり、平成28年度は30講座程の別の申込があった。ほかに館外の講座としてＳＳ利用としての学校の講座も行っている。

今後とも、館外の利用者に向けて、博物館利用の拡大を図るため、出前講座や出張講座の充実を図りたい。

◇その他行事

・『軒の山吹』再現　　参加者数：209名

４月26日(火)～５月１日(日)

『軒の山吹』再現

・「盆踊りと昔語りと手仕事の夕べ」参加者数：193名

７月16日(土)

「盆踊りと昔語りと手仕事の夕べ」

他施設・他団体との連携

◇日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会

平成28・29年度の幹事館として当館を主会場に次のとおり事業を遂行した。

■10月27日(木)

（１）役員会　13:00～13:40（大会議室：13名）

（２）総　会　13:50～14:30（学習室：40名）

①開会行事

②議事

（３）研修会（兼秋田県博物館等連絡協議会研修会）

14:40～17:00（講堂：44名）

①事例発表

テーマ：「リニューアルへの取り組みと博物館の魅力発信」

発表館

・美郷町歴史民俗資料館

・秋田大学大学院国際資源学研究科附属鉱業博物館

・TDK歴史みらい館

②質疑応答

③講評

④秋田県立博物館特別展観覧

（４）情報交換会 18:30～20:30(かまくらの郷：21名)

■10月28日(金)

（５）視察研修　9:30～11:20

(秋田城跡歴史資料館：17名)

◇秋田県博物館等連絡協議会（略称：秋博協）

（１）役員会、総会　６月３日(金)

(秋田県立博物館学習室 総会参加数：25館32名)

（２）研修会　本年の研修会は、日博協東北支部の研修会と合同で行った。

（３）実務担当者研修会　平成29年２月22日(水)

(秋田県立博物館学習室　参加数：18館31名)

講演：「博物館、美術館等における著作物の利用とその際の著作権問題について」

講師：川瀬　真 氏

(横浜国立大学成長戦略研究センター 客員教授)

（４）燻蒸サービス　９月１日(木)～９月８日(木)

７施設が利用

（５）秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」加盟各施設が掲載内容を随時更新した。

（６）秋博協リーフレット「秋田の博物館」発行

（７）会報の発行『秋博協だより』第51号

◇博物館「友の会」

（１）役員会、総会　４月30日(土)

（２）「秋田学」を深める研修１～４

①博物館企画展展示研修　４月30日(土)

②雄和の自然と文化を探る　５月21日(土)

③東成瀬・山内地区の自然と歴史探訪　８月27日(土)

④阿仁地区の歴史・文化を学ぶ　10月23日(日)

（３）見学博物館等研修

①三内丸山遺跡に古代日本文化を学ぶ　９月25日(日)

②世界遺産研修・世界遺産宮島と姫路城を巡る旅　６月19日(日)～21日(火)

（４）植物標本・考古学・古文書整理の各ボランティアによる活動

（５）友の会だより　第42号・第43号の発行

（６）主催講演会

①神秘！リンゴの受精～遺伝子から結婚相手を見極める～　９月25日(日)

講師：櫻井健二氏（秋田県立大学准教授）

②秋田　遊廓の文化史　10月22日(土)

講師：小松和彦氏（小松クラフトスペース）

会員数：183名（平成29年３月31日現在）

◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、活動内容によりＡ・Ｂ・Ｃ・笑（わら）の４チーム編成で活動に取り組んでいる。

Ａチームは、わくわくたんけん室での「おはなし会」の実施、講演会等の受付など来館者へのサポートを中心に活動した。Ｂチームは、わくわくたんけん室での体験補助を中心に活動し、27年度から始動した「裂き織り体験」の補助を充実させた。Ｃチームは、図書資料の整理（考古図書も含む）活動、会員通信「時計」の編集・発行、館内壁新聞の編集・掲示、各種研修の企画・運営を行った。笑チームは、定期的にワラ細工の製作技術研修を実施しながら、博物館教室や学校団体利用のワラ細工体験を支援した。年末にはしめ縄づくり教室を開催した。全チームによる取り組みとしては、例年の『軒の山吹』再現への支援のほか、イベント「盆踊りと昔語りと手仕事の夕べ」で「夕暮れ呈茶会」を主催した。

会員数：26名（平成29年３月31日現在）

◇その他団体（みるかネット等）

秋田市内文化施設連絡会議は平成23年度から活動し、市内文化施設相互の連携を図りながら展示等の活動を充実させてきているものである。平成28年度は、国際博物館の日にあわせて、５月14日にギャラリートークセッション2016「みんなで行こう、みゅーじあむ！」で、企画展「博物館の舞台裏で」の展示解説を行った。７月30日には、みるかネット連携講座で、「百鬼夜行の世界inあきた」で講演を行った。10月７日にはみるかネットバスツアーで、人文展示室の江戸時代の文化を中心に解説を行った。また、同会議が発行しているイベント通信17、18号に対して企画展等の情報を提供した。

博物館における実習・研修

◇博物館実習

平成28年度の博物館実習は、８月９日から15日までのうち６日間で行い、都留文科大、岩手大、帝京大、各２名、茨城大、弘前大、専修大、立正大、各１名、秋田公立美術大４名の計14名の実習生を対象にして実施した。

実習は、講義形式で博物館に関する事を学ぶものと、体験実習形式で、資料を取り扱ったり、博物館の事業や業務を体験する実務的なものの二つに分かれて行った。平成28年度は希望人数が例年より多かったため、今回から参加の秋田公立美術大学の４名の学生については、後半の３日間を別日程で実施し、特別展に関係した実習に振り替えた。

◇インターンシップ（大学）

秋田大学からの依頼で９月22日から25日までの４日間、１名の学生を受け入れ、研修を行った。

この研修は、実務を経験させ将来の職業選択に向けて、様々な職業についての理解を深めさせることを目的としているため、博物館の機能についての講義を行い、それに伴う実務実習として、資料の整理補助・来館者調査を行ってもらった。

◇教職10年経験者研修

男鹿市立美里小学校と秋田太陽幼稚園・ベビー園から教諭２名が当館の研修を選択した。日程は７月27日（水）～29日（金）の３日間であった（ただし幼稚園教諭は１日日程）。

研修内容は、１日目が展示室案内・わくわくたんけん室体験、２日目が収蔵庫案内・企画展案内・考古ボランティア体験、３日目が考古ボランティア体験・分館（旧奈良家住宅）案内であった。

この研修で得られた博物館での経験が少しでも今後の職場で生かされることを願っている。

博物館活動の記録・整理

◇博物館活動の記録・整理

博物館活動については新聞、雑誌等による110件を超える記事掲載があり、県内外に当館の博物館活動が広く伝えられた。特別展「発掘された日本列島2016」における新聞折り込み広告の実施などの活動はもとより、館全体での継続的な広報活動の成果が表れたものと考えている。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年に２回行われる博物館協議会において委員各位に配付した。

博物館活動を広く伝える媒体である新聞や雑誌等をはじめ、マスコミに対しての情報提供の内容や時期等について検証し、利用者増につながる広報活動により、当館の博物館活動の魅力を一層広めていきたい。

◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化や自然などに関する質問を受けている。平成28年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次の通りである。
考古25件、歴史15件、民俗15件、工芸12件、生物19件、地質20件、真澄２件、先覚５件、その他７件。

5　広報出版活動

展示やイベントに関するポスターやチラシについては、内容に合わせて配布計画を検討し、関連団体や学校等に重点的に配布した。秋田市内のコンビニエンスストアに対しては、県の計画に沿って配布した。館内アンケートによって、想像以上にポスター・チラシの宣伝効果が大きいことが分かったので、今後より訴求力や正確性に留意したデザインと内容に工夫したい。

マスコミ・地元情報誌等に関するプレスリリースや情報提供は、展示・イベントにあわせて時機を逸することなく、積極的に行った。

ホームページは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわ

せて掲載情報を更新した。また、トップ画面を変更し、イベントカレンダーをトップ画面に設置し、閲覧者の利便性の向上を図った。フェイスブックは、複数による発信を行い、投稿の頻度を増やすことにより、リーチ数が飛躍的に伸び、現在は１投稿につき1,000以上のリーチが見込めるようになった。

広報活動

◇広報計画の策定と実施

当館では、特別展、企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせ年５回の広報計画を策定している。

各展示のポスター・チラシのほか館発行の各広報誌やイベント情報等の印刷物について、学校、図書館、公民館などの公共施設や県内外の博物館、道の駅などの観光施設等に発送している。

これまで、ともすれば発送作業が開展間近になってしまうこともあったが、早めの納期にあわせた準備など各担当者からの協力もあり、概ね特別展、企画展開展の一ヶ月前までに広報することができた。

◇その他の広報活動の実施と改善

特別展「発掘された日本列島2016」では、８月の計画発送の他、特に事前広報として６月の計画発送で巡回展用全国版のチラシを各学校、図書館・公民館、観光施設等に配布した。また、県内地方紙への有料広告や文化庁担当による５回の連載記事掲載、フェイスブックでの頻度の高い広報等を行った。

展示やイベントの各報道機関等への情報提供については、県庁記者クラブへのプレスリリース32回をはじめ、広報誌「教育あきた」、「生涯学習だより」、「県政テレビ・ラジオ」等への掲載を積極的に働きかけることにより、企画展・特別展はもとより企画コーナー展や各種イベントなどに多くの取材があった。

広報は集客に直結するものであり、予算の範囲内で広く周知することができるよう、また多くの県民に興味・関心を持っていただけるよう、より効果的な広報について今後も工夫と改善を図っていきたい。

出版物の刊行・配布

◇展示ポスター

特別展「発掘された日本列島2016」（巡回展開催館での共同制作による当館分部数）　Ｂ２判　1,500部
企画展「博物館の舞台裏で」　Ｂ２判　1,200部
企画展「秋田の昆虫」　Ｂ２判　1,400部
企画展「四季のたのしみ　くらしのいろどり」　Ｂ２判　1,200部

◇展示広報チラシ

特別展「発掘された日本列島2016」（巡回展開催館での共同制作による当館分部数）　Ａ４判　10,000部
特別展「発掘された日本列島2016」（当館制作）　Ａ４判　15,000部
企画展「博物館の舞台裏で」　Ａ４判　20,000部
企画展「秋田の昆虫」　Ａ４判　62,000部
企画展「四季のたのしみ　くらしのいろどり」　Ａ４判　20,000部

◇展示図録

特別展「発掘された日本列島2016」（巡回展開催館での共同出版による当館分部数）　Ｂ５判　71頁　340部

◇展示解説資料

企画展「秋田の昆虫」　Ａ４判　８頁　1,000部
ロビー展示「楽しいしぼり染め第13回作品展」　Ａ４判　８頁　2,000部
秋田の先覚記念室企画コーナー展「子どもに伝えたい　秋田の先人」　Ａ４判　８頁　1,000部

◇広報誌

博物館ニュース№163・164　Ａ４判　８頁　各2,300部
広報紙「真澄」№34　Ａ４判　８頁　1,500部

◇報告書等

年報 平成28年度　Ａ４判　45頁　1,000部
秋田県立博物館研究報告 第42号　Ａ４判　148頁　600部
真澄研究 第21号　Ａ５判　84頁　500部

インターネット利用

ホームページを設置しているサーバは容量に十分な余裕があるため、過去の研究報告もスキャンして閲覧できるように追加した。他の印刷物に関しても順次追加していく予定である。

ホームページへのアクセス数は約５万回で、閲覧状況の記録から、トップページや企画展のページがよく閲覧されていることがわかった。利用者の利便性向上ため、該当のページのレイアウトの見直しと、情報の適宜更新を行った。

6　学習振興活動

学習振興班の二本柱は、体験型展示室である「わくわくたんけん室」の運営と、学校団体による博物館利用の支援である。

わくわくたんけん室には、体験学習のためのアイテムが入っている「宝箱」が約80個、壁面の棚に並んでいる。加えて、この部屋では、季節限定のものを含めて約20種類ほどの工作アイテムを楽しむことができる。

平成28年度は、常設展示室や企画展・特別展との連携を深める観点から、体験・工作アイテムの改善と開発に努めた。また、室内の環境整備をすすめた。

学校団体による博物館利用支援事業としては、博物館のセカンドスクール的利用及び出前授業の推進、職場体験やインターンシップ、「教員のための博物館の日」の実施などがある。

平成28年度は、企画内容や広報の充実を図ることで、こうした学校団体による博物館利用の支援・促進に努めた。また、新たに「秋田大学地域連携プロジェクトゼミ」への協力もすすめた。

どの班事業に対しても建設的かつ具体的な取組を積み重ねた一年だった。

わくわくたんけん室の運営

◇室内環境の整備・改善（一般及び団体利用）

利用者の利便性を高めるため、また、常設展示室や企画展・特別展との連携を深める観点から、わくわくたんけん室の環境整備と改善をすすめた。

利便性を高めるためには、カウンターのレイアウト整理や整頓に努めた。また、情報や注意事項が伝わりやすいように掲示を工夫した。特に工作アイテムについては工作の参考例を数多く示して、来館者の工作に取り組む意欲を喚起し、創造力をかき立てた。

常設展示室や企画展・特別展との連携を深める観点からは、広報台を室入口外の目立つ位置に配置換えして、室以外の広報も行うようにした。また、企画展・特別展とわくわくたんけん室アイテムの予告のためのディスプレイ棚コーナーを設け、来室者が他の展示室へ立ち寄ることや再来館することを促した。

加えて、平成28年度はわくわくたんけん室の展示機能の強化も図った。「秋田のやきもの」に触れることができる展示をリニューアルした。今後は、ミニ展示コーナーを設けて室の魅力を更に増すことも考えている。

小さなことでも気づいたことから即改善していくことが、環境整備・改善の取組においては有効である。

◇室内・体験アイテムの保守管理

わくわくたんけん室は、体験しながら学べるがコンセプトである。そのため、紛失や故障、来館者のケガ防止に日常的に留意している。特に石臼と実体顕微鏡は、実生活では馴染みのないものであるため、取り扱い方がわからず、強引に動かしたりして壊したり落としたりするケースが見られた。職員がその都度、修理や安全確認を行うなど迅速に対応した。

その他のアイテムに関して、昔のままごとや空気砲、宝箱などの、人気が高く日常的に利用されるものについては消耗度具合を見ながら交換や修理など行った。また、必要な工作材料の在庫確認や在庫切れ間近な物のリストアップに努めた。

工作アイテムや材料の補充、色鉛筆削りなどの環境整備や改善、道具の安全確認など、わくわくたんけん室内における環境整備・点検について、開館前と閉館後に毎日複数人で行った。このことは１年間の円滑な部屋の運営につながったといえる。

今後も来館者の快適な利用のため、安全対策や環境整備を整えていく。

◇アイテムの改善・開発

企画展・特別展と連携したアイテムを適宜提示することができた。企画展「秋田の昆虫」には、「切り絵で！あきたの昆虫標本」と「ペーパークラフトで！ミヤマクワガタ」。特別展「発掘された日本列島2016」では「竪穴住居ペーパークラフト」。企画展「四季のたのしみくらしのいろどり」には「石こうレプリカ天神様」を用意し、多くの来館者に展示とつながる工作を楽しんでいただいた。特に、昆虫関係のアイテムは展示期間を終了しても需要が高い。「天神様」は、わくわくたんけん室で今後増やしていきたい「大人向け」アイテムである。大人向けアイテム開発のキーワードは「かわいい」、「役に立つ」と見えてきたので、開発を続けたい。

体験アイテム「宝箱」については、「たたみ染めのバッグづくり」や「ユニット折り紙」などで、工作を進化させ、マニュアルを充実させるといった改善を加えた。宝箱のリニューアル、新箱の開発が課題である。

◇季節アイテム、イベント

わくわくたんけん室では、月ごとに違うイベントを行っており、楽しみながら体験的に秋田について学べるとあって、長期休業中の小学生や親子連れなどに大変人気の高いものとなっている。平成28年度は「たたみ染め・レプリカ製作」、「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ！」、「貝標本・貝のマグネット作り」、「ミニ門松・しめ縄づくり」に加え、「木の実アート」を復活し実施することでイベントの充実を図った。

特に「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ！」は12回目を迎え、クイズを解いた後にもらえるお宝カードの規格変更や特別展限定レアカード発行など、今後のイベント運営も視野に入れた改善を行うことができた。また、復活した「木の実アート」は特に大人に人気で、大人も楽しめるわくわくたんけん室を今後考えていく上で、一つの手応えを感じた。

これらのイベント予定は、カレンダーにして掲示・配布したり、フェイスブック等で紹介するなど広報面でも力を入れることで、より来館者が興味関心をもち、何度も足を運んでもらえるような工夫をした。

◇出張わくわくたんけん室

①仙北市田沢湖図書館　8月30日(火)
貝の標本づくり、貝のマグネットづくり

②湯沢市教育委員会（高松地区センター）　8月8日(月)
たたみ染め、あねさま人形・コマづくり、イタヤ馬、けん玉、乾拓、各種ぬりえ

③自然科学学習館（アルベ）　8月11日(木)
たたみ染め、浮沈子、砂鉄アート、各種ペーパークラフト

博物館における研修・実習

◇学校の博物館利用の援助

学校団体によるセカンドスクール的利用の状況を平成27年度と比較すると、幼稚園・保育所は天候によって利用数が不安定になりがちであったが、昨年度に比べ利用件数・利用者数ともに増加した。

小学校では秋田市内からの利用が減少したものの、県北・県南の学校からの利用が増加し、全体としては昨年の利用数・利用人数を上回った。これは県生涯学習課「あきたの子ども文化体験促進事業」を利用した活動によるものと思われる。

中学校・高等学校・特別支援学校については、どの校種とも利用件数はほぼ平成27年度と同様だが利用者数は減少しており、学年全体での大規模な利用から、選択による少人数での利用へと利用の仕方が変化してきていることがうかがえた。

平成29年度以降は、ニーズに対応した少人数用の細やかなプログラムの構築や、体験プログラム・出前授業メニューなどの従来コンテンツにおいても内容の見直しを図り、利用しやすい博物館としてより認知を高めていけるよう努力していきたい。

	平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	学校数	利用人数	学校数	利用人数	学校数	利用人数
幼稚園・保育所	22	887	14	593	24	1,363
小学校	99	4,841	97	4,289	95	4,574
中学校	30	1,058	31	1,673	34	1,107
高等学校	26	710	23	761	14	542
特別支援学校	5	35	8	124	4	29
その他	2	13	3	91	1	16
合計	184	7,544	176	7,531	172	7,631

◇出前授業

平成28年度の出前授業は、小学校５件、中学校１件、高校３件の計９件の申し込みがあった。教員のための博物館の日などで出前授業について広報などを行っているが、まだ認知度が低いように思われる。圧倒的に来館し

ての学習スタイルが多い。移動型の博物館感覚で、バスで出かけなくても、秋田の最新の研究成果に触れることができるという、出前授業の最大のメリットをどのように普及、広報するかが今後の課題といえる。

勝平小学校５年（104名）	昔の米作り	8/31(水)
八橋小学校４年（62名）	石川理紀之助	11/8(火)
能代西高校１年（67名）	秋田の自然	12/7(水)
秋田北高校３年（31名）	秋田の自然	1/14(土)
秋田北中学校全学年（182名）	石川理紀之助	1/16(月)
秋田中央高校３年（40名）	秋田の妖怪	1/19(木)
大住小学校６年（106名）	秋田の自然	1/20(金)
下浜小学校３年（８名）	昔の道具	1/26(木)
由利小学校３年（46名）	昔の道具	2/16(木)

◇職場体験・インターンシップ

当館は教育的施設であることから、博物館の業務や学芸員の職務を体験してもらうため学校の依頼により職場体験やインターンシップの受け入れを行っている。

平成28年度も中学校が６校、高校が６校の計12校で実施することができた。ただし、休館日やくん蒸期間に当たった４校については、日程の変更が難しく、実施を断念することとなった。主な実績は次の通りであった。

＜職場体験＞

山王中学校（３名）	5/31(火)
男鹿南中学校（２名）	7/6(水)
秋田西中学校（５名）	9/29(木)
天王中学校（３名）	10/18(火)～21(金)
秋田北中学校（１名）	11/1(火)
外旭川中学校（３名）	11/4(金)

＜インターンシップ＞

金足農業高校（２名）	7/26(火)～28(木)
男鹿南中学校（３名）	8/2(火)～4(木)
秋田和洋高校（１名）	8/9(火)～11(木)
五城目高校（２名）	8/24(水)～26(金)
秋田商業高校（３名）	9/13(火)～15(木)
男鹿工業高校（３名）	11/8(火)～10(木)

◇教員のための博物館の日

８月４日（木）「教員のための博物館の日」は学校、教育機関合わせ13名の参加を頂いて実施した。

午前中は、まずわくわくたんけん室にて概要説明の後、主要アイテム（和紙たたみ染め、石こうレプリカ）製作体験により、活動時間や作業の難易度を体感して頂いた。次いで分館旧奈良家住宅において、概要の説明と昔の人の暮らしや昔の道具の紹介に活用しうる箇所・ものについての解説を行った。

昼食を挟んだ午後は、当館のセカンドスクール的活動の概要を紹介の後、本館内展示室を２つのコースに分かれ、学芸職員の解説で見学して頂いた。展示の裏話的要素を盛り込んでの解説は、「授業のネタ」としての幅を広げる意味もあっておおむね好評であった。

最後は当館から貸出が可能な資料を各部門ごとに示し、その活用の方法などについて学芸職員が紹介した。

平成29年度からは、国立科学博物館が中心となって連携実施している「教員のための博物館の日」に加盟し、全国の博物館の活動からの情報を参考にしつつ、より秋田県内の先生方に有意義な情報を提供できる場となるよう工夫していきたいと考えている。

◇秋田大学地域連携プロジェクトゼミ

このゼミは、平成28年度より始まった秋田大学教育文化学部地域文化学科の３年次必修科目である。学生が地域の企業・団体等において社員や職員等と協働して業務に関わる中で、地域貢献型人材としての実践力を養成することを目的としている。

当館では、わくわくたんけん室のアイテム開発をゼミ課題として設定し、このため学習振興班がこれを担当することになった。平成28年度は２名の学生を受け入れた。

学生は、５月から10月にかけての計10日（56時間）の業務時間を活用して、秋田の文化や自然に直結するアイテム開発に取り組んだ。具体的には、一人は工作アイテム「プラ板銀線細工」開発を行い、一人は体験アイテム（宝箱）「ハノイの塔」の改善を行った。

「プラ板銀線細工」は、秋田銀線細工をプラ板に描き起こして再現させるという工作アイテムである。また、「ハノイの塔」の改善とは、そのドーナツ状の盤面に自然展示室に展示している秋田に生息する動物のイラストと説明文を貼り付けることであった。

「プラ板銀線細工」は、平成29年度から新工作アイテムとして実現する運びである。

◇教員長期社会体験研修

教育機関との連携で長期社会体験研修を実施した。これは、教員を民間企業や社会教育施設などに派遣し、広い視野に立った教育力や実践的指導力の育成を目的とす

るものである。平成27年度までは普及・広報班が担当していたが、平成28年度は学習振興班の担当だった。

平成28年度は小学校教諭２名を受け入れた。一年を通して、博物館業務に携わりながら研修テーマに基づいた研究を行った。研修の成果は、第31回秋田県教育研究発表会において発表した。

〇淡路浩昭（八郎潟町立八郎潟小学校教諭）

・研修テーマ

「博物館資料を活用した社会科副教材の開発～電子版『わたしたちの八郎潟町ver.3.0』の編集を通して～」

電子版社会科副教材を再編集し、これを活用したモデル授業の実践を行った。

〇佐々木淳（男鹿市立船越小学校教諭）

・研修テーマ

「地域の題材を授業に生かす取組～小学校６学年総合的学習の時間における実践を通して～」

小学校を通して実践されているふるさと学習を振り返り、総まとめする単元の設定を提言した。

7　館外活動

◇執筆（著書・論文など、「研究報告第42号」は除く）

丸谷　仁美	「昔話のデータベース化　秋田の昔っこを伝えるために」（『昔話を語り継ぎたい人に』）
	「ユネスコ無形文化遺産『山・鉾・屋台行事』を構成する秋田県内の文化財」（『文化遺産の世界28号』
	「秋田の妖怪」（『47都道府県・妖怪伝承百科』平成29年度刊行予定）
松山　　修	北鹿新聞「真崎文庫の活用を」（H28.10.12付紙面）
梅津　一史	「秋田県のシギゾウムシ類」（秋田自然史研究　No.71）
畑中　康博	「その時歴史が動いた…の？」（『楽園』34号）
	「殿、ふるまいは、おゆったりと、重々しく」（『楽園』35号）
	「少将になりたい！」（『楽園』36号）
	「戦場の秋田藩士」（『楽園』37号）
	「秋田藩重臣が記した『忠臣蔵』事件簿その１」（『楽園』38号）
	「秋田藩重臣が記した『忠臣蔵』事件簿その２」（『楽園』39号）
新堀　道生	「附船宿長浜屋旧蔵「歳々入船帳」の概要」（『秋田歴研協会誌』63号）
吉川耕太郎	「大型磨製石斧」ジョモネスク通信vol.13
	「初めてつくるもの」『どうぶつのことば』（共著）羽鳥書店

◇講演、講座など

丸谷　仁美	「民俗学の調査方法について」（横手郷土史研究会）
	「見えないものを見る～日本の妖怪秋田の妖怪～」（平成28年度みるかネット連携講座）
	「秋田の歩き方入門」（秋田県立大学）
	「四季のたのしみくらしのいろどり」（生涯学習センター発見！　ミュージアムゼミ）
松山　　修	「男鹿・南秋の歴史、文化の継承を考える―菅江真澄の足跡と功績から―」（県生涯学習センター・あきたスマートカレッジ）
船木　信一	「秋田の自然」（南秋田郡教育研究会理科部会教科研究会）
	「環境の達人」（秋田北高校、秋田東中学校、大住小学校）
	「郷土学ベーシック講座」（御所野学院高校）
浅利絵里子	第128回森林科学セミナー「総合博物館でできる植物研究～秋田のくすり今昔物語～」（秋田県立大学）
	「秋田を知ろう～上新城の史跡、秋田の薬」（秋田市上新城地区松木台祭）
	「石川理紀之助と民俗」（秋田県民俗学会）
	「秋田のくすり話あれこれ～皆で掘り起こす郷土の知恵」（秋田姓氏家系研究会、秋田おもと高齢者大学）

畑中　康博	「古い看板」（鹿角市花輪市民センター） 「波宇志別神社神主守屋家資料の世界」（能代市文化財保護協会） 「戊辰戦争時の秋田藩」（にかほ市郷土史研究会） 「歴史基礎講座第１回歴史基礎知識」（秋田県生涯学習センター） 「歴史基礎講座第２回日本史基礎」（秋田県生涯学習センター） 「歴史基礎講座第３回秋田の歴史基礎」（秋田県生涯学習センター） 「秋田の歩き方入門」（秋田県立大学） 「概観・秋田の歴史」（秋田県生涯学習センター） 「秋田の幕末・明治維新」（秋田県生涯学習センター） 「大仙市アーカイブズ・シンポジウム」（大仙市） 「人事記録から見た秋田藩戊辰戦争」（秋大史学会） 「人事記録から見た秋田藩戊辰戦争」（東北史学会・秋大史学会合同大会） 「歴史像を変える古文書－秋田県立博物館所蔵守屋家資料の整理から」（秋田の史跡を学ぶ会） 「戦場の秋田藩士－秋田藩戊辰戦争の群像－」（ルネッサンス・角館） 「秋田藩戊辰戦争の経過と視点」（秋田市観光案内人の会） 「英雄なき戦場－秋田藩戊辰戦争の実像－」（北羽歴史研究会） 「保呂羽山波宇志別神社守屋家資料の魅力」（神岡中央公民館）
新堀　道生	「附船宿長浜屋旧蔵「歳々入船帳」の概要」（秋田県歴史研究者・研究団体協議会秋の歴史フォーラム）
吉川耕太郎	「Where was siliceous shale procured during EUP」（The 8th symposium of the Asian Paleolithic Association） 「Study on Jomon Shale Mine in Tohoku region, JAPAN」（The 8th World Acha eological Congress） 「旧石器人類の進化と芸術性の獲得」（秋田公立美術大学特別講義） 「秋田県における旧石器研究の現状と課題」（秋田県考古学協会） 「縄文時代ってどんな時代？」（ゆざわ学講座） 「石器石材を巡る研究の現状と課題」（第30回東北日本の旧石器文化を語る会） 「御所野遺跡出土黒曜石の調査成果」（一戸町御所野遺跡調査研究報告会）

◇委員委嘱

新野　直吉	史跡払田柵跡調査指導研究委員（委員長） 秋田城跡整備委員会委員（委員長） 史跡秋田城跡保存管理計画策定指導委員会委員（会長） 後三年合戦（役）等関連遺跡整備指導委員会特別委員 秋田大学附属中学校評議委員 由理柵・駅家研究会顧問
丸谷　仁美	鳥海山北麓の獅子舞番楽調査委員 横手市文化財保護審議会委員 日本民具学会評議員
船木　信一	大潟村干拓博物館博物館協議委員 農林水産省成瀬皆瀬地区環境配慮調査アドバイザー
梅津　一史	国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー 秋田県版レッドデータブック改訂検討委員会委員
畑中　康博	大仙市公文書館設置懇話会委員
新堀　道生	秋田県文化財収録作成調査委員
小野寺　康	鳥海山北麓の獅子舞番楽特別調査委員
池端　広樹	秋田県環境教育等推進協議会委員
吉川耕太郎	日本考古学協会全国埋蔵文化財保護対策委員 大館市文化財保護審議会審議委員

資　　料

Ⅰ　収蔵資料の概要

収蔵資料総数　（平成29年４月１日現在）

総 集	美 術	工 芸	歴 史	考 古	民 俗	生 物	地 質	先 覚	真 澄	計
3,698	450	13,711	8,582	2,638	10,048	110,847	17,001	5,171	2,210	174,356

文化財指定物件一覧（館蔵資料）

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第６号	紙本着色　秋田風俗絵巻	１巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財（絵画）
県	工芸	工芸第40号	刀　銘出羽住忠秀刻印	１口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第34号	鐔　壇渓図	１枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第53号	短刀　銘天野藤原高真作 元治元年吉日	１口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	１合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第62号	鐔（あやめ図透彫） 銘　出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	１枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第67号	刀　銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	１口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料（刀剣類ほか）	１括	平成11. 3.12	県指定有形文化財（工芸）
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保字狐森出土	１口	昭和53. 6.15	重要文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 （枯草坂古墳出土）	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器（沢田遺跡出土）	１点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品（青磁碗他）	１括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財（考古資料）
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内上掵出土	４箇	昭和63. 6. 6	重要文化財（考古資料）
県	歴史	歴史資料第６号	久保田城下絵図	１幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財（歴史資料）
県	歴史	歴史資料第７号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財（歴史資料）
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	１幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	１巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	１幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	１棟	昭和40. 5.29	重要文化財（建造物）
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田杣子造材之画	１点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物	5-3-0001	田沢湖のクニマス（標本）	１点	平成20. 7.28	登録記念物

Ⅱ　歴代館長、特別展等一覧

名誉館長

新　野　直　吉	平成12年４月～

歴代館長

佐　藤　文　夫	昭和50年５月～昭和52年３月
加賀谷　辰　雄	昭和52年４月～昭和53年３月
奈　良　修　介	昭和53年４月～昭和58年３月
畠　山　芳　郎	昭和58年４月～昭和63年12月
斉　藤　　長	昭和64年１月～平成元年３月
佐　藤　　巌	平成元年４月～平成３年８月
橋　本　顕　信	平成３年９月～平成４年３月
近　藤　貢太郎	平成４年４月～平成７年３月
高　橋　彰三郎	平成７年４月～平成９年３月
新　野　直　吉	平成９年４月～平成12年３月
冨　樫　泰　時	平成12年４月～平成15年３月
佐々田　亨　三	平成15年４月～平成17年６月
三　浦　憲　一	平成17年６月～平成18年３月
沢　井　範　夫	平成18年４月～平成20年３月
佐々木　義　幸	平成20年４月～平成21年３月
鈴　木　幸　一	平成21年４月～平成22年３月
荒　川　恭　嗣	平成22年４月～平成23年３月
神　馬　　洋	平成23年４月～平成25年３月
風　登　森　一	平成25年４月～平成27年３月
佐々木　人　美	平成27年４月～平成29年３月
山　口　多加志	平成29年４月～

特別展等一覧

昭和53年１月	地域展	伝説の里鹿角
７月	特別展	（東京国立博物館巡回展） 日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年１月	地域展	鳥海山麓－山と人－
７月	特別展	日本の時代服飾
56年９月	東北展	東北の仮面
58年１月	地域展	平鹿－水とくらし－
７月	特別展	はにわ
59年５月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年７月	特別展	世界の貝
62年６月	東北展	出羽の近世大名
63年５月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年６月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
２年７月	特別展	日本のやきもの
３年４月	特別展	世界の昆虫
４年７月	特別展	近世美術の華
５年４月	特別展	鳥ってなあに
６年４月	特別展	北方文化のかたち
７年４月	特別展	地球を見つめる小さな眼
８年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－
平成９年11月	特別展	日本のわざと美
10年４月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年４月	特別展	おもちゃ
12年10月	特別展	（国立博物館美術館巡回展） 信仰と美術
16年９月	特別展	オリエント文化展
10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年７月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年９月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年７月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年７月	特別展	昆虫の惑星
21年４月	特別展	白岩焼
22年５月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年７月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年９月	特別展	アンダー×ワンダー！ ―北東北の考古学最前線―
25年７月	特別展	あきた大鉄道展
26年９月	特別展	菅江真澄、旅のまなざし
27年９月	特別展	徳川将軍家と東北
28年９月	特別展	発掘された日本列島2016

Ⅲ　秋田県立博物館条例

（昭和50年３月12日公布
昭和50年５月１日施行
平成24年４月１日最終改正）

（設置）

第１条　郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館（以下「博物館」という。）を秋田市金足鳥崎字後山52番地に設置する。

（職員）

第２条　博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

（博物館協議会）

第３条　博物館に秋田県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会は、委員15人以内で組織する。

３　委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

一　学校教育及び社会教育の関係者

二　家庭教育の向上に資する活動を行う者

三　学識経験のある者

四　博物館の利用者

４　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（入場料等の徴収）

第４条　博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

２　前項の入館料の額は、別表第１に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

３　地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の４第７項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第２に定めるところにより使用料を徴収する。

（入館料等の減免）

第５条　知事は、特別な理由があると認めたときは、入館料又は使用料を減免することができる。

（入館料等の不還付）

第６条　既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めたときは、その一部又は全部を還付することができる。

（施行規定）

第７条　この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第１（第４条関係）

入館料の上限額

区　　分	金　額	
	個　人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	１人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	１人につき 320円
一　般	600円	１人につき 480円

別表第２（第４条関係）

区　分		金　額
講　堂	１　日	11,700円
	半　日	5,850円
学習室	１　日	3,500円
	半　日	1,750円

Ⅳ　秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎　秋田県教育委員会行政組織規則

第26条　秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

一　博物館事業の企画運営に関すること。

二　資料の収集、保管及び展示に関すること。

三　資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。

四　資料の解説及び広報活動に関すること。

五　秋田県立博物館協議会に関すること。

◎　教育機関の管理及び運営に関する規則

第９章　博物館

（開館時間）

第38条　秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期　　間	時　　間
４月１日から10月31日まで	午前９時30分から午後４時30分まで
11月１日から３月31日まで	午前９時30分から午後４時まで

（休館日）

第39条　博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　月曜日（当該日が休日又は８月29日に当たるときは、その翌日）

二　年始（１月１日から１月３日まで）

三　年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条　講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の４第７項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

２　第11条第２項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

Ⅴ　入館者に関する資料

(1)　入館者数内訳

平成27年度

総入館者数　107,277人

有料展示

徳川将軍家と東北

平成28年度

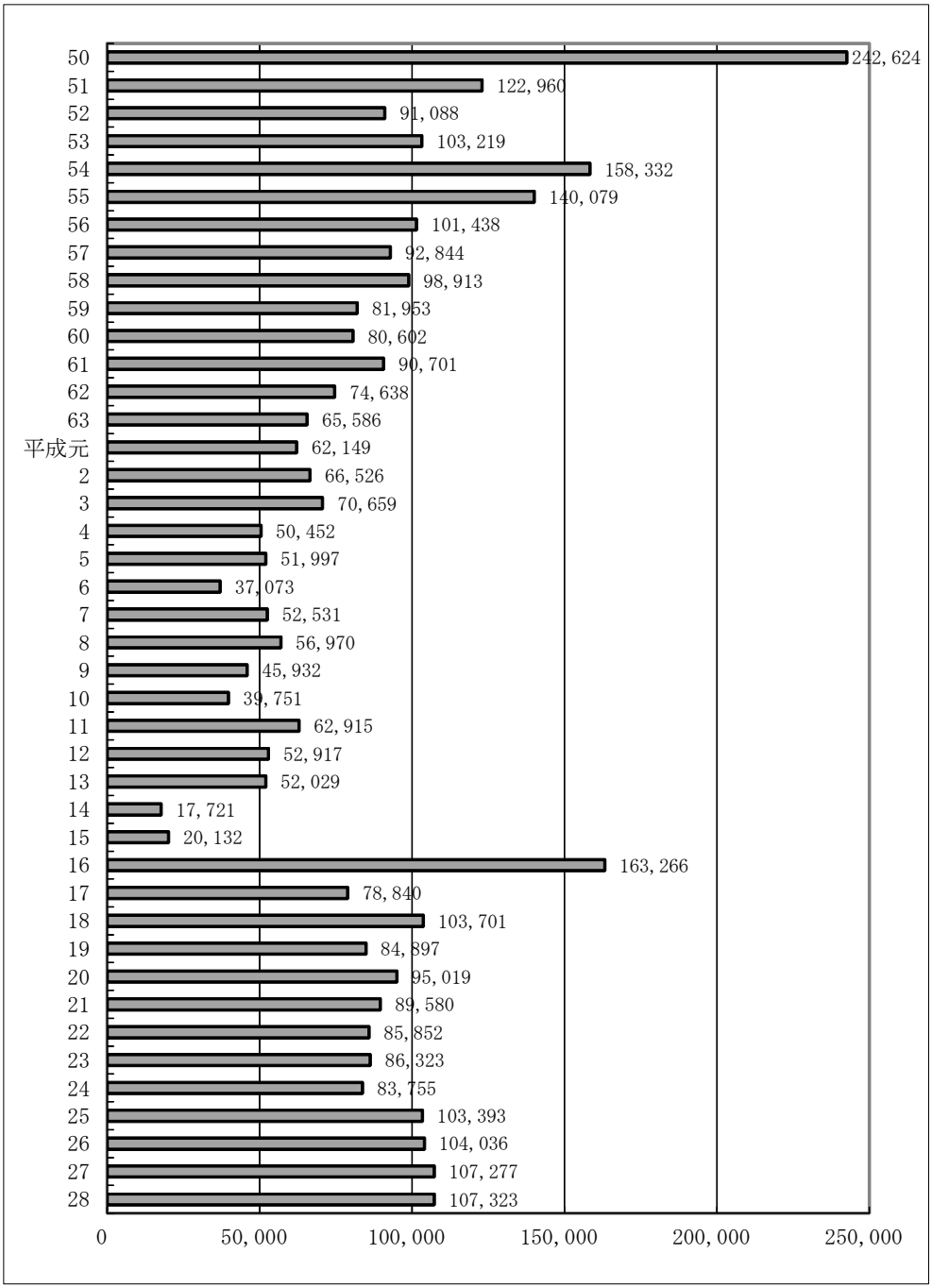
総入館者数　107,323人

有料展示

発掘された日本列島2016

(2)　年度別入館者数の推移

延べ入館者数　　3,577,993人（平成28年度末）



※平成14･15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～利　用　案　内～

開館時間　４月～10月　午前９時30分～午後４時30分
　　11月～３月　午前９時30分～午後４時

休　館　日　・月曜日
（ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日）
・年末年始
（12月28日～１月３日）
・燻蒸消毒の期間
平成29年度は９月４日(月)～９月11日(月)

入　館　料

通常料金　　無料
平成11年４月１日から、博物館の入館料が無料になりました（本館・分館とも）。
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使　用　料

区　　分		金　　額
講　　堂	１　日	11,700円
	半　日	5,850円
学 習 室	１　日	3,500円
	半　日	1,750円

～交　通　案　内～

本　　館
ＪＲ東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バ　　ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分
車　　：秋田自動車道昭和男鹿半島ＩＣより10分、秋田北ＩＣより15分
秋田市中心部から国道７号で約15km・30分

分　　館
ＪＲ東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩35分
バ　　ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋田県立博物館年報

平成29年６月発行
〒010－0124
秋田市金足鳥崎字後山52
秋田県立博物館
ＴＥＬ　018－873－4121
ＦＡＸ　018－873－4123